
僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！～都市内での戦い～

i z u m i

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！〜都市内での戦い〜

【Nコード】

N0997W

【作者名】

izumi

【あらすじ】

僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！の第2弾！とある街に集められた21人の逃走者たち。果たして逃げ切るものは現れるのか！？

逃走者紹介（前書き）

前回の完成してから1日しかたっていない。

第2弾です！よろしくお願いします！

逃走者紹介

逃走者紹介

『らき すた』

泉こなた

アニメ&ゲームが大好きな高校生。前は一度捕まるも、復活を果たしたが、ゲーム時間が残り7分を切ったところで確保された。ミッションには行く気は無い様子。

小早川ゆたか

こなたの従妹。足は少し遅い。ミッションには状況次第では行く。

岩崎みなみ

ゆたかの友人でクラスメイト。身体能力はかなり高く、ミッションにも積極的。

黒井ななこ

こなたたちの教師。足は普通。ミッションには行く。

『けいおん!』

中野梓

放課後ティータイムのギター担当で唯たちの後輩。足は普通でミッションは行く。

平沢憂

唯の妹。足は少し速くミッションにも積極的。

『とある魔術の禁書目録』

上条当麻

学園都市に住む右手に「幻想殺し（イメージブレイカ）」の力を持つ不幸な少年。

前回は転んだり、2体のハンターに追いかけられたりと散々な目にあった。

今回もミッションには向かう。

インデックス

「魔導書図書館」や「歩く教会」と言われる魔術師の少女。足は遅く、ミッションは他人任せ。

『バカとテストと召喚獣』

吉井明久

文月学園高等部2年生でFクラス所属の高校生。足は普通でミッションにはいかない。

姫路瑞希

明久のクラスメイト。足は遅いが、ミッションには向かう。

島田美波

明久のクラスメイト。足は普通。ミッションは行く。

『ハヤテのごとく!』

マリア

三千院家のメイド。足は普通、ミッションには向かわない。

桂ヒナギク

白皇学院の生徒会長。足は速く、ミッションにも向かう。

『銀魂』

神楽

万事屋銀ちゃんゴンゴウギンちゃんの従業員の一人。身体能力はかなり高いがミッションは他人任せ。

『THE IDOLM@STER』

高槻やよい

家族思いの建気な少女。足は普通でミッションには行く。

菊地真

ボーイッシュな少女。運動神経抜群でミッションにも積極的。

『大乱闘スマッシュブラザーズX』

マリオ

皆さんご存じのスーパースター。足は普通でミッションにも行く。

スネーク

「不可能を可能にする男」と呼ばれる男。足は普通くらいでミッションには積極的に向かう。

『Angel Beats!』

仲村ゆり

SSSのリーダー。足は少し速い。ミッションは行く。

『迷い猫オーバーラン!』

芹沢文乃

洋菓子店ストレイキャッツの従業員。足はかなり早くミッションにも向かう。

『日常』

相生祐子

時定高校1年Q組所属。足は普通でミッションは前半は行く。

以上の21人が逃走者だ!!

逃走者紹介（後書き）

逃走者は前回より少ない21人。

その理由はオープニングゲーム時にわかります。

それと今回もドラマがありません。

楽しみにしてる方、ごめんなさい。

エリア詳説（前書き）

今回の逃走者が逃げるエリアです！

エリア詳説

エリア詳説

今回逃走者が逃げるエリアは架空の都市『天ノ海市^{あま}』。

開発が進み、ビルが立ち並ぶ巨大都市である。

広さは東京ドーム4個分。

エリア内には天ノ海市の景色を一望できる『天ノ海タワー』、

いろいろな物がそろっている『天ノ海デパート』、

木々があり、憩いの場として有名な『天ノ緑地』などがある。

逃走者は交通法規を厳守、私有地は立ち入り禁止。

逃走者は交通ルールを守りながらエリア内を逃げる。

エリア外に出る、交通違反などをすればその場で強制失格となる。

ちなみに、エリアの近くには新幹線が通っている。

エリア詳説（後書き）

今回のエリアは、天ノ海市の一部を逃走エリアとして使用していません。

建造物などはいろんな場所の建物をモデルとしています。

オープニングゲーム1（前書き）

今回、逃走者が少ない理由が判明します。

オープニングゲーム1

天ノ海市 天ノ緑地入り口

まだ夜も明けきつてない天ノ海市内。

その天ノ緑地の入り口に21人の逃走者が集められた。

ななこ「緊張するなあ〜…。」

祐子「まだ夜も明けてないよ…。」

こなた「もうそろそろだよね…。」

するとスピーカーから不気味な声が聞こえてきた。

『これより、ゲームを始める。』

マリオ「ついにか！」

『君たちの前にいる4体のハンターはボックスの中に閉じ込められている。』

目の前に色分けされた鎖は全部で21本。

そのうち1本だけがボックスの扉を開放するハズレの鎖。
それを引くと4体のハンターが解き放たれゲームがスタートする。』

彼らが行うのは恐怖のオープニングゲーム！

彼らはハンターボックスから20メートル離れた所から1人ずつ前
に出て鎖を引きぬかなければいけない！

ただし、21本の鎖のうち1本だけがハンターを放出するハズレの
鎖。

それを引くとハンターが解き放たれゲームがスタートする。

なお、鎖を引き抜く順番はくじ引きで決定する。

マリオ「引くぞ！せーの…。」

ズボツ！！

マリオ「何番だ？…14番。多分来ないな…。」

神楽「おお！私は1番を引いたアル！」

ななこ「10番！？出るかもな…。」

当麻「6番か…早い方だな…。」

スネーク「19番…運が良いな…。」

運任せだ…。

ゆたか「順番決まったからもう引くんだよね…。」

神楽「1番は私アル！引いてくるアル！」

当麻「待て待て。スタッフさんの指示が無いと…。」

神楽が鎖を引きに行こうとした、その時だった…。

『しかし、今回このゲームに挑むのは君たちだけではない。』

逃走者たち「ええ!?!」

スピーカーから声が聞こえてきた。

ゆり「何ですって!?!」

文乃「一体どうゆうことよ!?!」

突然のことに戸惑いを隠せない逃走者たち。

すると、彼らの近くにあったモニターがあるものを表示した。

そこには彼らと同じく21人の逃走者がスタンバイしていた。

瑞希「こ、これは...」

美波「えっ!?!他にも逃走者いたの!?!」

「やよい「聞いてないです…。」

インデックス「この人たちも逃走者なんだ…。」

西エリア 天ノ公園

つかさ「ふええ！？他にもいたの!？」

ルイージ「ちよつと待って！僕聞いてないよ!？」

雄二「俺だつて聞いてないぞ！」

実は逃走者たちには伝わっていなかったがこの逃走中のエリアは東と西に分けられており、

それぞれ21人の逃走者がスタンバイしていたのだ。

そして、2つのステージを逃げ切らなければ賞金を獲得できないシステムなのだ。

賞金は1stステージでは1000円、2ndステージでは2000円ずつ上昇。

1stステージは50分、2ndステージは100分、計150分ハンターに捕まらずに逃げ切れれば賞金150万円を獲得できる。

東西両エリアには、ハンターボックスが4つずつ設置されており、

それぞれが鎖を引いて行き、先にハンターを放出してしまったエリアが1stステージとなる。

一方、ハンターを放出しなかったエリアの逃走者たちは無条件で2ndステージへと進め、賞金も加算される。

先攻か後攻かはそれぞれのエリアの代表者がモニター越しにじゃんけんで決める。

東エリア代表 桂ヒナギク 西エリア代表 御坂美琴

ヒナギク「絶対に勝つわ…！」

美琴「負けない…！せーの…。」

両者「じゃんけんぽん！」

桂ヒナギク パー 御坂美琴 パー

両エリアの逃走者たち「おお〜…。」

オープニングゲーム1（後書き）

実は今回このような感じにしたのはみなさんを驚かせたかったです。

ただ、このことに気づいていた人が…。

恐るべし…。

今回は最初の逃走者紹介で紹介されてない西エリアの逃走者紹介です。

まあ今回の何人かわかってるんですけどね。

逃走者紹介2（前書き）

西エリアの逃走者紹介です。

逃走者紹介2

逃走者紹介

『らき すた』

柊つかさ

かがみの双子の妹。足はやや遅く、ミッションにはハンターが怖く
て行かない。

永森やまと

八坂こうの親友。足はかなり速く、ミッションにも行く。

天原ふゆき

こなた達の保健の先生。足はかなり遅いがミッションには行く。

『けいおん!』

田井中律

放課後ティータイムのドラム担当。前は通達1でイベントホーム
に向かっている途中で確保された。ミッションには行く。

『とある魔術の禁書目録』

御坂美琴

当麻と同じ学園都市に住み、「超電磁砲^{レールガン}」の異名を持つ少女。前回は残り時間が1分を切ったところで確保となった。今回は逃走成功リベンジに燃える。ミッションには絶対に行く。

初春飾利

「風紀委員^{ジャッジメント}」の一人。足は遅い。ミッションには行く。

月詠小萌

上条のクラスの担当である化学教師。足は遅く、ミッションにはいかない。

『バカとテストと召喚獣』

坂本雄二

明久の悪友で相棒。足はかなり速いがミッションには行かない。

土屋康太

明久の友人。足はかなり速い。ミッションには行かず、隠れて行動する。

『ハヤテのごとく!』

綾崎ハヤテ

三千院ナギに仕えている執事。身体能力はかなり高く、ミッションにも積極的に行く。

三千院ナギ

三千院財閥の令嬢。足はかなり遅く、ミッションも他人任せ。

『銀魂』

近藤勲

真撰組局長。身体能力は高く、ミッションにも行く。

山崎退

真撰組の監察方。足はかなり速い。ミッションは行く。

『THE IDOLM@STER』

天海春香

常に前向きで素直かつ優しい性格の少女。足は普通。ミッションは

行く。

如月千早

非常に気真面目な性格の少女。足はやや速く、ミッションには行かない。

『大乱闘スマッシュブラザーズX』

ルイーダ

マリオの弟。足は普通でミッションには行かない。

ガノンドロフ

ゲルド族の男。足はかなり遅く、ミッションも他人任せ。

アイク

グレイグ傭兵団の団長を務める剣士。前回はハンターと鉢合わせして確保。ミッションは行く。

『Angel Beats!』

音無結弦

戦線メンバーの一人。身体能力は高く、ミッションにも行く。

『迷い猫オーバーラン!』

都筑巧

私立梅ノ森学園2年所属。足は普通でミッションには行く。

『日常』

東雲なの

普通の女の子に憧れるロボ女子高生。足は普通でミッションには行く。

以上の21人が西エリアの逃走者である。

逃走者紹介2（後書き）

次回、オープニングゲームが始まる…。

オープニングゲーム2（前書き）

この逃走中に出しているキャラの何人かは僕のお気に入りです。

山崎や天原先生、アイクがそうです。

それにしても…。

オリキャラ、出してみたいなあ…。

オープニングゲーム2

西エリア1人目 近藤勲

近藤「うお〜…このハンターとかいう奴は怖いものだな…。」

近藤が向かう先にはハンターがボックスの中で放出の時を待っている…。

マリオ「引いてくれ…。」

神楽「早く引いてゴリラストーカー捕まっしてほしいアル。」

ゆたか「…？誰のこと…？」

近藤「よし、決めた。赤！」

なの「何ですか…？」

近藤「なんとなく、だ！」

クリアか…ハンター放出か…？

近藤「…引くぞ！おりゃあ…！」

ガシャン！

近藤「…セーフ…。」

ヒナギク「出なかった…。」

神楽「ちつ。」

明久「！？今舌打ちした人いたよね…？」

東エリア1人目 神楽

神楽「絶対クリアするアル！」

ルイージ「引いて…。」

神楽「深緑！これアル！」

美波「な、なんで？」

神楽「酢昆布アル！」

神楽以外「…は？」

神楽「引くアルよ。」

クリアか…ハンター放出か…？

神楽「…ほいアル！」

ガシャン！

神楽「キャッホー！出なかったアル！」

雄二「クリアされたか…。」

小萌「まわってきましたか…。」

西エリア2人目 ガノンドロフ

ガノンドロフ「ふん！こんなものにビビるとは…。」

ナギ「な、なんか文句あるのか！？」

ルイージ「それよりも何色引くの〜？」

ガノンドロフ「やはりこの俺には黒色がお似合いだな…。」

やよい「あれってハンターの色ですよ…？」

ななこ「出すなアイツ…。」

果たして、クリアか…ハンター放出か…？

ガノンドロフ「…ふんっ！！」

ガシヤン！

ガノンドロフ「クリアだな。」

ハヤテ「言ってくださいよ…。」

美琴「びっくりさせないでよー！」

やまと「…予告はして…。」

ガノンドロフ「別にいいだろう。」

ガノン以外「よくない！！」

マリア「引きませんでしたね…。」

当麻「悪運強いなアイツ…。」

東エリア2人目 吉井明久

明久「うわ〜…怖〜…。」

律「引いてほしいな…。」

美波「引いたらどうなるかわかってる…?」

瑞希「えへへ〜。」

明久「ちよつと！黒いオーラが！」

雄二「すまんな明久、引いて捕まってくれ。」

康太「……すまない…。」

明久「青引くよ！」

クリアか…ハンター放出か…?

明久「とお！」

ガシャン！

明久「セーフセーフ！」

つかさ「また回ってきたよぉ〜。」「

西エリア3人目 山崎退

山崎「何色引こうかな…?」「

神楽「ジミールか。」「

近藤「山崎！何色だ!?!」「

山崎「ええと…あずき色を…。」「

ハヤテ「えつと…何ですか…?」「

山崎「あんぱんですかね…。」「

ナギ「なんだその理由は?」「

クリアか…ハンター放出か…?

山崎「…せーの!」「

ガシャン!

山崎「…出なかった…。」「

祐子「ええ〜…これいつまで続くのお〜？」

憂「精神的にきつい…。」

東エリア3人目 芹沢文乃

文乃「黄色引くわ！」

インデックス「何で〜？」

文乃「別にいいでしょ。引くわよ…。」

クリアか…ハンター放出か…？

文乃「…はああ…！」

ガシャン！

文乃「出なかったわ…。」

当麻「だから言ってくれよ…。」

文乃「何！？文句でもあるの…！」

当麻「いや、そうゆうわけじゃ……。」「

文乃「そんなことするやつは……一回死ねー!!」「

当麻「不幸だああああ!!!!」「

インデックス「とうまー!!」「

西エリア4人目 永森やまと

やまと「……黄緑……。」「

ゆり「出して……。」「

やまと「……引くわ……。」「

もし、この鎖がハンター放出の鎖ならハンターが放出され、4体すべてがやまとに襲いかかる!

やまと「……はあ……!!」「

ガシャン!

やまと「…セーフ。」

やよい「また回ってきましたあ〜…。」

東エリア4人目 中野梓

律「梓か…。」

アイク「放出してくれ…。」

梓「ちや、茶色引いてみます!」

マリオ「な、なんでだよ?」

梓「出ないような気がするから…。行きます!」

クリアか…ハンター放出か…?

梓「やあ!」

ガシヤン!

梓「…とりあえずですね…。」

ナギ「またなのか〜!？」

飾利「もう耐えきれません…。」

西エリア5人目 天原ふゆき

ふゆき「何色にしましょうか…。」

ヒナギク「あの人…引きそうな感じしないわね…。」

真「清楚な感じがする…。」

みなみ「…。」

ふゆき「ええと…私保健の先生をしているので白色を…。」

クリアか…ハンター放出か…?

ふゆき「引きますよ〜!せ〜の!」

ガシャン!

ふゆき「出ませんでした…。」

ルイージ「怖い…。」

東エリア5人目 マリオ

マリオ「確か俺が引いて次向こうが引いたら不幸野郎だったよな…。

」

当麻「不幸野郎って…。」

マリオ「絶対ここはクリアして次引いてもらわないとな…。」

みなみ「…何色を引くの？」

マリオ「とりあえず向こうも出なかったのと自分のイメージカラーで赤！」

任天堂のスーパースターのマリオ。はたしてクリアできるのか!?

マリオ「引くぞー!おりゃ！」

ガシャン!

マリオ「危ない危ない…。」

つかさ「回ってきたよ…。」

小萌「ってかこの次のこっちって…。」

ハヤテ「はい。僕です。」

西エリア6人目 綾崎ハヤテ

ハヤテ「水色引きますね。」

アイク「逃げる準備…。」

雄二「此処で始まるのか…。」

ハヤテ「ちょ、まだ出てませんって…。」

近藤「出てしまった時のためだ！あんま気にするな！」

ハヤテ「そうですか…じゃあ引きますよー！」

クリアか…ハンター放出か…？

ハヤテ「…せーの！」

果たして、その結果は！？

オープニングゲーム、次回に続く。

オープニングゲーム2 (後書き)

次回に続きます。

オープニングゲーム3 (前書き)

今回ハンターが放出します！

ハンターを放出してしまって1stステージになってしまったのは
どちらなのか！？

そして、ハンターを放出させた哀れな逃走者は！？

オープニングゲーム3

西エリア6人目 綾崎ハヤテ

ハヤテ「そうですか…じゃあ引きますよ！」

クリアか…ハンター放出か…？

ハヤテ「…せーの！」

ガシャン！

ハヤテ「…大丈夫ですよ。」

雄二「はぁ…出るかと思ったぜ…。」

アイク「ビビった…。」

こなた「回ってきたよ…。」

東エリア6人目 上条当麻

スネーク「左手で引け！左手で！」

当麻「はいはい。えーと…。」

インデックス「早く選んで…。」

当麻「よし！銀色だ！」

憂「何で…？」

当麻「きれいだから…。引くぞ…。」

マリア「これは…逃げる準備を…。」

クリアか…ハンター放出か…？

当麻「…おりゃあ…！」

ガシャン！

当麻「…？あ、クリアだ…。」

ななこ「…びっくりしてもうたわ…。」

結弦「おい、回ってきたぞ…。」

巧「次…誰？」

春香「はい！」

西エリアア7人目 天海春香

春香「此処まで怖い経験は無いです…。」

やよい「春香さんですね…次は…。」

ゆり「いつになったら終わるのかしら…？」

春香「えっと…何色が良いのかな…？」

なの「あの…早く決めてください…。」

春香「あ、はい！えっと…朱色を…。」

クリアか…ハンター放出か…？

春香「引きますよ…。」

ガシャン！

春香「…出ませんでし…わあ！」　ズシヤア！

アイク「何も無いところで転んだ！」

小萌「あの…大丈夫…？」

春香「あはは…転んでしまいました…。」

ヒナギク「回ってきたわ…。」

東エリア7人目　菊地真

真「何色が良いかな…。」

ゆたか「どれ引きますか…？」

真「…オレンジ！」

祐子「いつ引く…？」

真「もう引くよ！」

クリアか…ハンター放出か…？

真「…やああ…！」

たちは…。

こなた「ハンター来てる〜！」

ヒナギク「速すぎでしょ〜！」

マリオ「最悪だ〜！」

ハンターが視界にとらえたのは…。

真「来た〜！」

菊地だ…。

真「うわあ〜！」

ポン

菊地真 確保 残り 20人

真「速すぎだよハンター…あんなの逃げれるわけ無いよ…。」

ハンターに見つかれば…振り切るのは…容易ではない！

一方、1stステージ免除となった西エリアの逃走者たちは…。

つかさ「よかった〜。」「

ハヤテ「なんとかやりましたね〜。」「

雄二「それにしても向こうすごい悲鳴をあげていたな。」「

アイク「ハンター放出したからな。」「

ルイージ「あんなのに追われて悲鳴上げない方がおかしいよ。」「

明久「はあ…まさか出てしまうとは…。」「

マリオ「あれは無いぞ…。」「

ピリリリ…ピリリリ…。

やよい「メールです〜。」「

当麻「『天ノ緑地入り口付近にて菊地真確保。残り20人。』…始
まったか…。」「

こなた「絶対逃げるよ…!」「

ハンターから逃げた時間に応じ、賞金を獲得できる。それが…。

run for money逃走中!

「ななこ「いろんな店があるな」…。」

「ヒナギク「まだ明かりが点いてるわね」…。」

「今回の逃走劇の舞台は此処、天ノ海市！」

「まず東エリアの逃走者は50分間、このステージで逃げ、それに残ったものが2ndステージに進める！」

「賞金は1秒100円ずつ上昇！50分間逃げ切れれば賞金は30万円となる！」

「やよい「もう6千円です」…。自給にしたらすごいことです」…。」

「神楽「もうこれだけで酢昆布たくさん食べれるアル！」

「明久「とりあえず…危なくなったら自首することも考えてるけどね」…。」

「さらにこのゲームでは自首も可能！エリア内にある5個の公衆電話から申告すれば、それまでの賞金を獲得できる！」

「ただし、ハンターに捕まってしまうえば失格、賞金も0！」

ゆり「逃げ切ってやるわ…！」

祐子「もうすごいことになってるよ…。」

逃げ切って2ndステージに勝ち進むのは、誰だ！？

オープニングゲーム3 (後書き)

第3弾…全然考えてないけどドラマは作らないとな…。

すべてドラマなしってのはアカンからな…。

MISSION? 発動(前書き)

なぜ沖田が出てないか…。

DSの扱いは苦手…。

MISSION? 発動

当麻「もちろん逃げ切つてやる！」

マリオ「まあまずは1stステージクリアつてとこだよな。」

2人で行動する当麻とマリオ。

当麻「なあ…お前さつき不幸野郎って言つてたよな？」

マリオ「それはすまん。にしてもルイージ何してるのかなあ…。」

当麻「ビリビリのやつらか？さあな…。」

そのころ、東エリアの逃走者たちがハンターから逃げ惑っている時、西エリアの逃走者たちは…。

アイク「さて、今俺らはこうゆう状態だ。」

彼らは場所を天ノ公園から天ノ海ショッピングモールの休憩広場に移動していてそこに用意されていたテーブルで休んでいた。

スタッフ「飲み物が6種類用意されていますがどうされますか？」

つかさ「あの…オレンジジュースで…。」

なの「ココアがいいです。」

ガノン「コーヒーを頼む。」

山崎「それにしても…今向こうはパニックでしょうね…。」

アイク「ハンターから逃げてるからな…。」

明久「ええーと…今3分くらいだから…1万8千円！すご！」

マリア「あれは…ハンターですね…。」

遠くにハンターを見たマリア。

マリア「此処に逃げますね。」

路地道へ逃げる。

ゆり「どこが良いのかしらね…。」

エリアを移動中のゆり。しかし、背後からハンター…。

ゆり「…！いた！」

ハンターに見つかった…。

ゆり「速い速い！！速すぎるー！」

ハンターとの距離が縮まる…。

ゆり「イヤアアア！」

ポン

仲村ゆり 確保 残り 19人

ゆり「あんなに速いのハンターって…悔しい…。」

ハンターは驚異の持久力とスピードを持つ。見つければ、逃げるのは容易ではない。

憂「メールが来た…。」

情報は全てメールで通知される。

文乃「ゆり確保！残り19人！」

瑞希「まだ始まって5分も立ってないですよね？」

ヒナギク「またメールが来たわよ…。」

スネーク「ミッション1…。」

当麻「『エリア内に8このハンターボックスを設置した。』8個！
？」

ゆたか「『残り40分までに横のレバーを下さなければハンターが放出される。』」

ななこ「『なお、放出されたハンターは2ndステージにも引き継がれる。』」

インデックス「『急ぎたまえ。』」

ミッション1 ハンター放出を阻止せよ！

エリア内にハンターボックスを8個設置した。

残り40分になるとハンターが放出されその数は最大12体となる。
なお、増えたハンターは2ndステージにも引き継がれてしまう。

雄二「マジかよ…。」

ルイージ「兄さんとかやってくれないかな…。」

西エリアの逃走者たちにとっても他人ごとではない！

明久「誰かやればいいんだよ！まだ19人も残ってるしさ！」

神楽「誰かすればいいアルよ。」

現在のゲーム残り時間は4分02秒。放出まで…6分02秒。

スネーク「増えるのはまずいな…行くか…。」

ヒナギク「1つでも下げよう！」

文乃「これねハンターボックス！」

近くでハンターボックスを見つけた文乃。

文乃「下げればいいのね。えい！」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り7個

文乃「この調子でやっていくわ！」

ななこ「あれやなハンターボックスは…。」

黒井ななこもハンターボックスを見つけた。

「ななこ……！ハンターいたで……！」

しかし、ハンターを見つけハンターボックスから遠ざかる。

「ななこ「何であそこにおるんや！？アカンやろ……。」

「やよい「ハンター怖いけど行きます……。」

ハンターに怯えながらもミッションに向かうやよい！

「やよい「とりあえずこのあたりから探します……。」

現在残り時間は4分53秒！現在封印されているハンターボックスは1つのみ！

果たして何個封印できるのか！？

MISSION? 発動(後書き)

ミッション? が発動された。果たして逃走者たちはクリアできるのか!?

MISSION?1 (前書き)

ゲームでポケモンをやっているラティオスがLv61まで育った所でゲームが近くにあった棚にぶつかったらそのせいでゲームの電源が消えた…。

またLv50からやり直し…。

不幸だあああ!!!!!!

(前にも何回かあります。)

MISSION? 1

当麻「なあ俺ら二人いるんだし別れて探さないか？」

マリオ「それもそうだな。」

当麻「俺はあつちを探す。」

マリオ「じゃあ僕はこっちだな。」

ペアで行動してた2人はここから分かれて行動するようだ。

ゆたか「?これかな...。」

ハンターボックスを見つけた小早川ゆたか。

ゆたか「下げたおこつ...えいつ。」

ガシャン!

ハンターボックス封印 残り6個

ゆたか「よかった...ミッションに参加できて...。」

スネーク「よし！見つけたぞ！おりゃあ！」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り5個

スネーク「あとはどこか…探すしかないな…。」

ヒナギク「これは…下げられているわね…。」

ヒナギクが見つけたのは先ほどゆたかが下げたハンターボックス。

ヒナギク「あとどこ探してないのか…やっぱりデパートあたり？」

天ノ海デパートに向かうようだ。

西エリア

ルイージ「今何個封印できたのかな？」

アイク「放出まであと…3分か…。」

ガノンドロフ「あれだけ残っているんだ。半分以下ぐらいだろう。」

ピリリリ…ピリリリ…。

文乃「えーと途中結果…。」

インデックス「封印できていないのは5個…。」

アイク「何！？あれだけいて3個しかできてないのか！？」

近藤「あれじゃないのか？見つけにくい場所にしかけてあるとか…。」

ナギ「そうだとってもせいぜい5個ぐらいはできてるだろう！」

雄二「まったく、腑抜けなやつらだ！」

そのころ、梓はハンターボックスを見つけていた。

梓「これですね…ボックス…。よっ。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り4個

梓「あと4個どこにあるんですかね…。」

明久「僕は行かないよ。ミッション行ったら捕まるから。」
ミッションに興味のない吉井。

明久「積極的に行く人が行けばいいんだ。」

しかし、彼が潜む場所の近くにはまだ封印されていないハンターボックス。

明久「しかしあと2分半だろう…大丈夫かなあ？」

ハンターボックスには気づいていない。

美波「見つけた見つけた…。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り3個

当麻「これは…封印されてるか…。」

文乃「誰かに下ろされてるわね…。」

やよい「見つかりません…。」

祐子「ハンターボックスはと…うわハンター…。」

ハンターを見つけたゆっこ。

祐子「離れようか…。」

インデックス「頑張ってるかな…。」

公園の草陰に身をひそめるインデックス。

ハンター「…。」

インデックス「…ハンターいる…。」

ハンター「…！」

見つけた…。

インデックス「見つけた〜！」

インデックスの近くに…。

マリア「誰か追われてますね…逃げましょう。」

マリアだ…。

マリア「あの人には悪いですが…。」

その場を離れる。

インデックス「いやあ〜！」

ポン

インデックス 確保 残り 18人

インデックス「怖かった〜…。」

当麻「あつ…インデックス捕まった…。」

みなみ「あれは…ハンターボックス…。」

ハンターボックスを見つけた岩崎。

みなみ「…！ハンターいる…。」

しかし、ハンターに見つかった…。

みなみ「ここは逃げる…。」

驚異の身体能力で逃げるみなみ。

ハンター「…？」

なんと、ハンターをまいてしまった。

そして岩崎はハンターボックスの前に到着した。

みなみ「これを下げるのね…えい。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り2個

みなみ「クリアしました…。」

ミッション終了まであと、1分！

現在封印できてないハンターボックスはあと2個！（そのうち1個は明久の近くにある）

果たして、すべて封印できるのか！？

MISSION??1 (後書き)

次回、ミッション?終了です。

果たしてすべて封印できるのか!?

MISSION? 2 & MISSION? 発動(前書き)

ラジオかテレビみたいなお話はじめてみたいな…。

オリキャラ出してみたいから…。

ただ他の作者さんが既にやっているため始めにくい…。

あと最近Wiiのポケモンバトルレボリューションのインターネット
ト対戦にはまりはじめた。(インターネットをつなげたのは5、6
月だから。)

MISSION? 2 & MISSION? 発動

ミッション終了まであと1分を切った！封印されてないのはあと2個。

果たしてすべて封印できるのか!?

ヒナギク「やっと着いたわ…。」

天ノ海デパートについた桂ヒナギク。

ヒナギク「あと1分じゃない！速く探さなきゃ！」

明久「そっいえば皆何してるのかなあ…。」

明久がその場を離れようとする。

明久「えーと…やばい！ハンターが来てるよ！」

近くにいたハンターに見つかった…。

明久「うわああああ…!!!!!!!!」

逃げる明久。近くにあったハンターボックスに気付かない！

明久「こっちに…。」

近くの建物の影に逃げ込む…。

ハンター「…！」

ハンターも建物の影に向かう。

ハンター「！？」

しかし、そこは行き止まりだが明久はいない。一体どこに行ったのか…。

ハンター「…。」

ハンターは諦めその場を立ち去った。そして明久はと言うと…。

明久「ふう…ここがなかったら捕まっていたね。」

近くの間隙に隠れていた。そこは私有地ではないためルール違反にはならない。

明久「よかった…。」

運が良い男…。

ミッション終了まであと20秒！

ヒナギク「無い…。」

ハンターボックスを探すヒナギク。

ヒナギク「えっと…あつた！」

やっとハンターボックスを見つけた。しかし、残り12秒。間に合うのか！？

ヒナギク「全力で走る！」

8

7

6

5

4

3

2

ヒナギク「よいしょ！」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り1個

ヒナギク「ま、間に合ったわ…。」

そして、残ったハンターボックスから…。

プシュー！ガコン！

ハンター1体が放出された…。

明久「やばい…音がした…離れる！」

近くにいた明久はその場を離れる。

ゆたか「メール…。」

梓「ハンターボックスは7個封印。しかし、ハンター1体が放出されその数は5体となった。」

ナギ「何だとー！？すべて封印できなかったのか！？」

これにより、西エリアのゲームではハンターは5体から始まることとなった。

雄二「ちょっと待て皆、まだメールに続きがあるぞ！」

マリオ「ミッション2…？1が終わった直後なのか！？」

神楽「『エリア内にハンターボックスを5個設置した。』次5個あるか。」

スネーク「『残り30分までに横のレバーを下さなければハンターが放出される。』」

やよい「『しかし、今度は？順に、そして二人でレバーを下さなければならぬ。』」

ななこ「『急ぎたまえ。』って？順！？」

ミッション2 再びハンター放出を阻止せよ！

エリア内に再びハンターボックスを5個設置した。

残り30分までにレバーを下さなければハンターが放出される。

しかし、今度は2人で下さなければならぬ。

そして、？順に下さなければ封印できない。

設置されたハンターボックスの？は以下の通り。

- 1 天ノ海タワー
- 2 天ノ緑地入り口
- 3 天ノ海図書館
- 4 天ノデパート
- 5 天ノ海通り

マリオ「くそ…今度は2人でしかも番号順とは…。」

スネーク「まあミッション時間がさつきと違い10分近くあるのが救いだな…。」

しかし、逃走者たちはどのハンターボックスがどの？なのかを知らない！

文乃「此処からだ図書館が近いわ。行ってみましょう。」

図書館の？は3なのでまだ封印はできない。

こなた「通り…これだ。」

ハンターボックスを見つけたこなた。

こなた「えっ！？？5！？一番最後じゃん！」

天ノ海通りのハンターボックスは4個封印しないと封印できない。

ゲーム残り時間39分35秒

果たして、今度はすべて封印できるのか！？

MISSION? 2 & MISSION? 発動(後書き)

MISSION? が終わった直後に発動されたミッション?。

しかし、ミッション時間は長くなったもののミッションの難易度が上がった。

果たしてクリアできるのか!?

MISSION?1 (前書き)

関西出身だが関西っぽくない喋り方の僕。

何でだろうか？ (知らない)

MISSION? 1

エリアに再びハンターボックスが設置された。

しかし今度は2人で、しかも?順に下していかなければならない。

果たしてクリアできるのか!?

明久「ミッション行かないよ。だって他の人がや...。」

明久が立ち止った。何を見たのか...。

明久「何でこうゆう時にハンターボックス見つかるんだよ...。」

見つけたのはハンターボックス。しかも...。

明久「?1ってこれいちばん最初のやつじゃん...。」

天ノ海タワーのハンターボックスだった。

明久「誰かに電話して呼ぼうか...増えるのはいやだし...。」

ピリリ！ピリリ！

瑞希『は〜い明久君。なんでしょうか〜？』

明久「あのね、タワーで？1のハンターボックスを見つけたんだけどあともう一人必要なんだ。悪いけど来てくれないかな？」

瑞希『そうゆうことならわかりました〜。今から行きます〜。』
ピッ！

明久「ミッションやりたくないけど…仕方ないよね…。」

当麻「ん？あれは…おーい！」

こなた「誰か来た…。」

当麻「それハンターボックスだろ？一緒に封印しようぜ！」

こなた「無理なんだよ〜これ？5だから…。」

当麻「えっ？…うわ、ほんとだ…。」

こなた「多分下げても意味無いと思うよ。まだ送られてきてからそんなに時間たってないし。」

当麻「せっかく見つけて封印できると思ったのに…不幸だ〜…。」

文乃「着いたわ…。」

?3のハンターボックスにつ着いた文乃。

文乃「これは…?3…?」

文乃が見てるのはハンターボックスの両側にある画面のようなものだった。

文乃「『封印不可能。』って書いてあるわ…。」

そう、この画面には封印できるかどうか分かる仕組みになっている。

文乃「ここを確認すればいいのね。あともう一人呼んでおこうかしら。」

明久「姫路さん!こっちこっち!」

瑞希「はあ…はあ…これですか…?」

明久「下げるよ!いっせーので。」

ガシャン!

？1のハンターボックス封印 残り4個

明久「なんとかできたね…。」

瑞希「よかった〜。」

これにより、？2のハンターボックスが封印可能となった。

ゆたか「どこにあるのかな…？」

ハンターボックスを探すゆたか。

ゆたか「えーと…不味い、ハンターいる…。」

しかし、見つけたのはハンター…。

ハンター「…！」

見つかった…。

ゆたか「見つかった…。」

ゆたかが逃げる先に…。

やよい「誰か来てます…ってハンターもいます…！」

やよいだ…。

ゆたか「あつ、ごめん!!」

ゆたかがやよいを追い抜いた。そのせいでハンターの標的がやよいに変わった。

やよい「えっ!?えっ!?きゃあ〜!」

ポン

高槻やよい 確保 残り 17人

やよい「確保されました〜」。

ゆたか「だ、大丈夫かな…?捕まったりしてないかな…?」

みなみ「…メール…。」

マリオ「『高槻やよい確保。残り17人。』」

ゆたか「あの後捕まっただ…ごめん…。」

罪悪感を感じるゆたか。

マリア「これはハンターボックスですね…。」

ハンターボックスを見つけたマリア。

マリア「?2…封印可能ってなっていますね…。」

そこに…。

スネーク「おーい!」

マリア「あっ!これで封印できますね。」

しかし…。

スネーク「早くh…!!」

スネークが元来た道を引き返して行った。

マリア「まさか…逃げないと!」

スネークが見つけたのは…ハンターだ…。

スネーク「くそっ!封印できるチャンスが…。」

マリア「はあ…はあ…なんとかまいたみたいですね…。」

2人とも、ハンターを振り切ったようだ。

マリア「でも、距離が出てしまいましたね…。」

スネーク「ハンターのせいで動けん…。」

マリア「はぐれてしまいました…。」

神楽「自首ありアルな…。」

自首を考える神楽。

神楽「まだ早いアルか…？もうちょっと頑張ってみるアル。」

現在封印できているハンターボックスの数は1個。

ミッション終了まであと6分。

間に合うのか！？

MISSION? 1 (後書き)

ドラマ…いくらか候補がある…。

でも全部最初と最後しか無くて中身は無い…。

大丈夫だろうか？

MISSION? 2 (前書き)

またラティオスを育ててたら2回も電源が切れた！

不幸だ…。

MISSION? 2

祐子「まだまだ時間あるね〜。」「

時計を確認する祐子。

祐子「でも気を抜いたらだめだよ。よし、頑張ろう!」

スネーク「…いないな。」「

ハンター「いないことを確認し、動くスネーク。」

スネーク「不味い!あと5分半だ!急ごう!」

当麻「まだ封印できないのかよ…。」「

こなた「そりゃそうでしょ。?5なんだから。」「

当麻「はあく不幸だ…。」「

憂「これ…ハンターボックスだよな?」

憂がハンターボックスを見つけた。見つけたハンターボックスのは…。

憂「?2…封印可能ってなってる。」

先ほど、マリアが見つけたハンターボックスだ。そこに…。

スネーク「はあ…はあ…封印するぞ!」

憂「えっ!?あつ、うん!」

スネーク・憂「せーの…。」

ガシャン!

?2のハンターボックス封印 残り3個

スネーク「よし、やったぞ!」

文乃「!封印可能ってなった!」

マリオ「?何してんだこんなところで…それハンターボックスじゃないか!」

文乃「封印しましょう!」

マリオ「あ、ああ…そうだな。」

文乃「せーの…！」

ガシャン！

？3のハンターボックス封印 残り2個

みなみ「どこまで封印したんだろう…。」

神楽「むむ！あの黒いのがそうアルな！」

遠くにハンターを見つけた神楽。

ハンター「！」

そして、ハンターも神楽の姿をとらえた。

神楽「この『かぶき町の女王』をなめるんじゃ無いアルよ…！」

かなりの速さで脇道に逃げ込もうとする神楽。

ハンター「…。」

しかし、逃げる先にハンター…。

神楽「ふはははは！この私を捕まえるなんて…。」

ハンター「！」

神楽「まだまだひよっこ…。」

ポン

神楽 確保 残り 16人

神楽「へ？」

油断大敵だ。

神楽「う、嘘アルよ〜！」

マリオ「『神楽確保。残り16人。』…。」

そして、神楽を確保したハンターが…。

美波「みんなやってるのかしら…。」

島田に接近…。

美波「メール来たわ…神楽確保だつて…えっ！？ここよりすぐそこじゃない！！」

ハンター「！」

見つかった…。

美波「わあ！？ハンター！！」

美波が逃げる先に…。

みなみ「！？」

岩崎だ…。みなみと美波が合流した。

美波「に、逃げて…！」

みなみ「…さつき行って…。」

美波「えっ！？何言ってるのよ！！」

みなみ「此処は私が囿になる…。だからあなたは…。」

美波「そんなことできるわけ無いじゃないのよ！私が連れて来たのに…。」

みなみ「…！来た！」

美波「くっ…！」

ハンターが視界にとらえたのは…。

みなみ「こつちに来た…。」

岩崎だ…。

みなみ「…っ！」

ポン

岩崎みなみ 確保 残り 15人

みなみ「逃げれたかな…。」

美波「あの子の方に行ったけど…大丈夫かしら…。」

明久「『岩崎みなみ確保。残り15人。』って連続!？」

ゆたか「みなみちゃん…。」

美波「嘘…私のせいだ…。」

ミッション終了まであと1分半！

祐子「お！？ハンターボックス！しかも？4だ！」

ハンターボックスを見つけた祐子。

ななこ「これハンターボックスやんか！？」

そこに黒井が合流。

祐子「とりあえず…やりましょか！」

ななこ「そうやな！せーの…。」

ガシャン！

？4のハンターボックス封印 残り1個

ななこ「なんかミッションやると…うれしいな…。」

ミッション終了まであと1分！

こなた「封印可能ってなったよ！」

当麻「よし！下げ…げふ！」

こなた「石につまずいた…大丈夫？」

当麻「ふ、不幸だ…。」

こなた「早く下げよ！」

当麻「そ、そうだな…せーの…。」

ガシャン！

？5のハンターボックス封印

MISSION CLEAR

こなた「あと1分もなかったよ…。」

当麻「危ね…。」

ヒナギク「『ハンターボックスはすべて封印され、ハンター放出は無し。』！」

マリオ「すごいぞー！」

ルイーダ「やったー！！！」

ハヤテ「よかったですね〜…。」

ナギ「ミッション？でハンター1体が出ておるではないか！」

やまと「もうそんな過去のこととはどうでも…。」

ハヤテ「そうですよ。」

ナギ「ふん！」

ゲーム残り時間は30分を切った！

残ってる逃走者は泉こなた、小早川ゆたか、黒井ななこ、マリオ、スネーク、中野梓、平沢憂、マリア、桂ヒナギク、吉井明久、島田美波、姫路瑞希、上条当麻、芹沢文乃、相生祐子の15人。

MISSION?2 (後書き)

自分が逃走中に出た時どうなるか考えてみた。

不幸すぎて前半でアウト。

まあこじつなると思っ。

牢獄DEトーク(前書き)

次回の逃走中…逃走者たちって誰でしょうかね…。

気になる。

牢獄DEトーク

現在ハンターの数 は5体。彼らに捕まれば賞金は0となる。

マリオ「今29分か…。」

ゲーム終了まであと29分06秒。まだまだ先は長い。

マリオ「20分あたりから結構捕まるんだろっな…。テレビで見て後半で大量に捕まってるからな…。」

その予感は的中するのか…。

こなた「あれそっだよね…?」

遠くにハンターを見つけたこなた。

こなた「やばいやばい離れよ…。」

その場を離れる…。

祐子「今どれくらいだろっね…13万2千円!…。」

祐子の目の前には公衆電話が…。

祐子「いやゝさすがにこれはダメでしょ…。」

今、自首をすれば約13万2千円を獲得できる。

祐子「もうちょっと行かなきゃね…。」

ハンター「!」

祐子「!?!」

ポン

相生祐子 確保 残り 14人

曲がり角からハンターが出てきて、鉢合わせになってしまった。

祐子「…。」

その場に呆然と立ちつくす祐子。

ゆたか「確保情報来ました…。」

こなた「『相生祐子確保。残り14人。』」

牢獄DEトーク

ピリリリ…ピリリリ…。

インデックス「確保情報が来たよ。」

ゆり「誰が捕まったの？」

インデックス「『相生祐子確保！』」

皆「あ…。」

やよい「また捕まりました…。」

ゆり「ねえ…誰が(2ndステージに)行けると思う？」

真「足の速い文乃さん…当麻君…。」

ゆり「まあ…そんなところよね…。」

神楽「あのやろ…酔昆布の夢が台無しになったアル！」

やよい「まだ言ってるんですか…？」

神楽「ヘルプス！ヘルスミー！！」

真「ヘルプミーだからね、神楽ちゃん。」

梓「…！ハンター…。」

ハンターを見つけた梓。

梓「…やばい…。」

曲がり角をうまく使い…。

ハンター「…？」

ハンターをまいた…。

梓「危なかったです…。」

明久「はあ…捕まってパーになりたくないな…。」

ハンターに確保されれば賞金は0となる。

明久「持って帰らないと…酷い目にあうからな…。」

瑞希「明久君とミッションクリアできてよかったです。」

吉井とは違い、明るい姫路。

瑞希「またミッションなったら明久君とクリアしたいです。」

ヒナギク「…ハンターって待ち伏せとかはしてないんでしょうね…。」

「

ハンターはエリア内をくまなく探す。待ち伏せは、しない…。」

ヒナギク「ほんとに…怖すぎるわよ…。」

マリア「それにしても…どこから来るかわかりませんね…。」

ハンターは神出鬼没。いつどこから来るか、わからない。

マリア「いつでも逃げれる準備をしておかないといけませんね…。」

マリアの背後から近づくハンター…。

マリア「周りに…いました!」

ハンター「!」

ハンターに、見つかった…。

マリア「はぁ…はぁ…っ！」

ポン

マリア 確保 残り 13人

マリア「はぁ…はぁ…。」

ヒナギク「えっ！？マリアさん確保!？」

当麻「どんどん減っていくな…。」

ピリリ！ピリリ！

スネーク「…メール…ミッション?!来たか…。」

逃走者たちにミッション?が発動された。その内容は!?

ゲーム残り時間24分34秒。

牢獄DEトーク(後書き)

ミッション?の内容は次回、明らかに!!

MISSION?発動(前書き)

ミッション?が発動。その内容は!?

MISSION? 発動

ピリリ!ピリリ!

スネーク「…メール…ミッション?!来たか…。」

ゆたか「『エリア内の天ノ海タワー前に賞金リセット装置を設置した。』」

ななこ「『残り10分になると装置が発動し、賞金は0からのスタートとなる。』って0からのスタート!?!」

マリオ「俺らがここまで逃げて来た苦労が無駄になるじゃねえか…。」

明久「え!?クリアできなかつたらこのステージで逃げ切っても6万円しか獲得できないの!?!」

美波「『それを阻止するには賞金リセット装置のレバーを3人で下さなければならぬ。』」

こなた「『なお、ミッションが失敗した場合、2ndステージの逃走者も減額される。』向こうにも迷惑がかかるんだ…。」

アイク「マジかよ…。」

ミッション？ 賞金リセットを阻止せよ！

天ノ海タワー前に賞金リセット装置を設置した。

残り10分になると装置が発動し、賞金が0からのスタートとなってしまう。

それを阻止するには賞金リセット装置のレバーを3人で下さなければならぬ。

なお、ミッションが失敗した場合は、2ndステージの逃走者にも迷惑がかかってしまう。

雄二「これクリアできなかつたらこっちも6万円になるのか!？」

ハヤテ「これは向こうがクリアしてくれることを願うしかありません…。」

小萌「これはやばいですよ…。」

スネーク「タワー…ここからは遠いな…。」

タワーまで距離があるスネーク。

スネーク「だがミッションに向かうぞ!」

しかし、ミッションには向かう。

ゆたか「行ってみようかな…？役立ちたいから…。」

マリオ「行くぞ！」

梓「ちょっと行ってみます…。」

憂「近くは無いけど行ってみる。」

ヒナギク「このあたり？じゃあ誰か来るまで待てばいいのね。」

美波「さっきの人のためにもこれは行かないと…。」

当麻「よし、行ってみるか。」

ななこ「行くで！」

文乃「行ってみる…。」

こなた「このゆうづお金が絡むミッションはね、ロクなことにならないよ…。」

明久「リセット嫌だ…誰か行って…。」

瑞希「えっと…ここはどこですか…？」

梓「ミッションに参加したいです…。」

タワーに向かう梓。

梓「…！ハンター！」

しかし、ハンターに見つかった…。

梓「速い…！…ひゃあ！」

ポン

中野梓 確保 残り 12人

梓「く、悔しい…。」

憂「梓ちゃん確保されちゃった…。」

ななこ「残り12人…。」

ヒナギク「あ、あつた…。」

賞金リセット装置を見つけたヒナギク。

ヒナギク「誰かに電話して呼ばうかしら。」

ピリリリ…ピリリリ…。

美波『ヒナギクさんですか？何の用ですか？』

ヒナギク「今ね…装置の前にいるの。来てくれないかしら？」

美波『今向かってます！もうちょっと待って下さい！』

ピッ！

ヒナギク「来てくれるって言ってたから…。あと一人必要よね…。」

ゆたか「あれ…ハンターだ…。」

ハンター「…」。近くの茂みに隠れる。

ゆたか「…。」

ハンター「…。」

ゆたか「…危なかった…。」

見つからなかったようだ…。

ゆたか「怖いよ…。」

ミッションに向かっているのは小早川ゆたか、マリオ、スネーク、平沢憂、桂ヒナギク、島田美波、上条当麻、黒井ななこ、芹沢文乃の9人。果たしてクリアできるのか!?

MISSION? 発動(後書き)

残る逃走者 12人

泉こなた 小早川ゆたか マリオ スネーク 平沢憂 桂ヒナギク
吉井明久 島田美波 姫路瑞希 上条当麻 黒井ななこ 芹沢文
乃

MISSION? 1 (前書き)

MISSION? 発動。

MISSION? 1

発動されたミッション?。残り10分までに装置のレバーを下げないと賞金が0からのスタートとなってしまう。

現在レバー前にいるのはヒナギク一人。あと二人必要。

果たして間に合うのか!?

ゆたか「まだまだ遠いな...。」

スネーク「誰がいるのか...?これ確か3人が必要だろう...?」

文乃「あっ!」

文乃が誰かを見つけた。見つけたのは...

美波「誰がいる...あの人と一緒に行こう!」

島田だ...

文乃「ねえ、ミッション行ってる?」

美波「今行こうと思っているの?あと一人必要だったから...。」

文乃「誰か先にいるの？」

美波「えっと…ヒナギクちゃ…！こつち！」

文乃「！ハンター！」

2人がハンターに見つかった…。

文乃「こんな時に…。」

美波「私はこつちに行く！」

文乃「私はこつちね！」

美波は曲がり角を右に、文乃は左に曲がった…。

ハンターが曲がったのは…。

美波「こつち？！？」

右だ…。

美波「キャアアアア！…！！！」

ポン

美波「あの子のために頑張ろうと思ったのに……。」

償い、できず……。

文乃「大丈夫かしら……ハンターに捕まらなければいいけど……。」

明久「あつ！捕まった……。」

ヒナギク「えっ！？島田ちゃんつかまった！？……どうしよう……。」

文乃「なんだか悪い……。」

ななこ「ハンター……来てへんな……。」

周りを警戒する黒井。

しかし、後方から黒い影……。

ななこ「誰もいないんか？」

？」「…。」

ななこ「うん…ってうわぁー!!」

当麻「うおわ！びっくりしたな！」

上条だ…。

ななこ「なああなたミッション行くんか？」

当麻「行くことは思っているんだが…。」

ななこ「あと一人誘ったらミッションクリアできるので！よっしゃ行
こか！」

当麻「え、あ、おう…。」

2人で、ミッションに向かう！

低い姿勢で警戒するこなた。

こなた「…ハンター発見…。」

遠くにハンターを見つけた。

こなた「こつちに…！？ってこつちも!？」

逃げた先に、別のハンター…。

こなた「やばいやばい…。」

ハンター「…！」

見つかった…。

こなた「やばい来た！」

ハンター「…！」

しかし、もう一体のハンターに見つかった。

こなた「こっちに…。」

ハンター「…？」

ハンター1体はまいたが…。

ハンター【l o c k - o n I Z U M I K O N A T A】

もう一体のハンターはまだこなたの姿をとらえている！

こなた「ふう…はあ…。」

しかし、こなたは気付かない！

こなた「…えっ！？もう1体！？」

ポン

泉こなた 確保 残り 10人

こなた「…まいたと思ったのに…。うわぁ…。」

油断大敵だ…。

憂「確保情報！」

ゆたか「お姉ちゃん…。」

文乃「此処…いた！」

ヒナギク「あっ！こっちこっち…。」

文乃「あと一人いないの!？」

ヒナギク「美波ちゃんに電話かけたんだけど…捕まっちゃった…。」

ミッションクリアまであと一人！

現在残り時間 1 分 21 秒

MISSION? 1 (後書き)

逃走者残りすぎ。

MISSION? 2 (前書き)

学校だ〜学校だ〜…嫌だ〜…。

スネーク「見苦しいぞ。作者。」

ハイ……すいません……。

ヒナギク「情けないわね……。」

MISSION?2

ミッション終了まであと6分30秒。

果たしてミッションクリアできるのか!?

文乃「誰かいない!?!」

ヒナギク「姫路さんに電話したけど……つながらない……。」

そのころ姫路は……。

姫路「ハンターいます……。」

ハンターを見つけて隠れていた。

ヒナギク「参ったわね……。」

二人に近づく……。

ハンター「……。」

ハンター……。

文乃「あと誰……やばい！」

ハンターに見つかった……。

ヒナギク「こんな時に……！」

ハンターが視界にとらえたのは……。

ヒナギク「こっちに来た……！」

ヒナギクだ……。

ヒナギク「キヤアアアア……！！！」

ポン

桂ヒナギク 確保 残り 9人

ヒナギク「何でこんな時にハンター来るのよ…！あと一人いたらク
リアできたのに…。」

マリオ「確保情報。」

文乃「不味い…どうしよう…。」

スネーク「あともう少しだな…。」

タワーに近づくスネーク…。しかし、近くにヒナギクを確保したハ
ンター…。

スネーク「…何！？しまった！ハンターだと！？」

ハンター「！」

気付かれた…。

スネーク「ぬおおおおお！！！！！」

ポン

スネーク 確保 残り 8人

スネーク「くそう…俺としたことが…。」

伝説の傭兵、ここで散った…。

マリオ「スネーク確保！？嘘だ！」

ゆたか「スネークさんも捕まってるよ…。」

ななこ「もうすぐやないのか？」

当麻「多分そうだと思うぞ…。」

ななこ「だってあのタワーやる？」

二人はタワー近くに來ていた。

ななこ「…ハンターいるで…。」

ハンターを見つけ身を隠す。

ハンター「…。」

ななこ「見つかなよ…。」

当麻「通り過ぎてくれ…。」

ハンター「…！」

ハンターが逃走者を見つけた！見つかったのは…。

当麻「俺かよー！？」

上条だ…。

ななこ「あっちに行つた…すまんけど、今のうちに行かな…。」

当麻「やべええええ！！！！！」

身体能力が高い当麻。角をつまく使い…。

ハンター「…？」

ハンターをまいてしまった…。

当麻「はあ…はあ…離れてしまったな…。」

文乃「着いた着いた…。」

レバー前に戻ってきた文乃。

文乃「え！？あと2分半じゃん！！」

ななこ「ぎりぎり着いたで…。」

レバーのもとに黒井がやってきた。

ななこ「あと一人おらんのかいな。」

文乃「早く誰か来て…。」

ゆたか「急がないと…ハンターいる…。」

ハンターを見つけたゆたか。

ゆたか「回り道して行こう…。」

当麻「はあ…はあ…こっからタワーまでは3分以上かかるな…。」

上条のいるところからタワーまでは3分以上かかる。

当麻「でも、俺は諦めねえ!!」

だが、ミッションに向かう!

憂「ハンターいないよね…?」

周りを見渡す憂。

憂「よし…大丈夫だ…。」

タワーに向かう。

ミッション終了まであと1分半!

文乃「やばい…時間が迫ってきてる…。」

ななこ「誰かおらんのかいな…。」

明久「…え!?ハンター!!」

ハンターに見つかった明久。

明久「不味い不味い！ここで終わりたくない！！」

しかし、距離があったため、ハンターを振り切った。

明久「ああ…よかった…。」

ミッション終了まであと1分！

文乃「誰かいないの…！？」

ゆたか「えっ！？ハンター！？」

ハンターを見つけたゆたか。

ゆたか「これじゃいけないよ…。」

マリオ「くそ…あと40秒…！」

ななこ「近くにはおらん…。」

文乃「！誰か来た！」

2
2
∴。

2
3
∴。

2
4
∴。

2
5
∴。

2
6
∴。

2
7
∴。

2
8
∴。

2
9
∴。

3
0
∴。

文乃が誰かを見つけた。やってきたのは…。

憂「間に合った…。」

憂だ…。

ななこ「はよ下げろで！」

3人「いつせいで！」

ガシャン！

MISSION CLEAR

ななこ「ギリギリや〜…。」

文乃「なんとか間に合った…。」

憂「よかつた〜…。」

マリオ「メール…。」

姫路「『芹沢文乃・黒井ななこ・平沢憂の活躍により装置停止。賞

金リセットを阻止した。』」

ナギ「すごいぞー!」

つかさ「先生すごい。」

残り時間は9分46秒。

残っている逃走者は8人。

果たして逃げ切るものはいるのか!?

当麻「あれ?終わり?」

もうミッションはクリアしている。

当麻「すぐ近くまで来たのに…不幸だあ…。」

MISSION? 2 (後書き)

次回、1stステージ終了。果たして逃げ切るのは!?

1stステージ終了！（前書き）

2ndステージステージ進出者は誰なのか！？

1stステージ終了！

現在残り時間は9分半。残っている逃走者は8人。

果たして、逃げ切るものは現れるのか！？

当麻「此処まで着たら逃げるぞ…。」

ななこ「此処で逃げ切つて第2ステージに進むんや…。」

ゆたか「…！ハンター…。」

ハンターを発見したゆたか。

ハンター「…！」

ハンターもゆたかの姿をとらえた。

ゆたか「！見つかったよ…。」

ゆたかの近くに…。

マリオ「誰か逃げてるぞ…。」

マリオだ…。

ゆたか「あつ…不味い…。」

ゆたかはマリオのいる所とは反対の方向に逃げた。

マリオ「離れようか…。」

ゆたか「ひゃあああ!!」

ポン

小早川ゆたか 確保 残り 7人

ゆたか「悔しい…。」

ななこ「アカン！小早川捕まった！」

明久「あれハンター？…いや違う…。」

吉井が見つけたのは…。

当麻「逃げるぞ〜…。」

上条だ…。

明久「おーい…。」

当麻「あ、お前か…。」

明久「ハンターいた？」

当麻「いや、いない…。」

明久「そう…。」

憂「あと…6分！」

姫路「もう少し〜…。」

文乃「！？ハンター！？」

ハンターに見つかった文乃。

文乃「速い…！」

建物の角をうまく使い…。

ハンター「…？」

ハンターをまいた。

文乃「はあ…はあ…危ないわね…。」

明久「いけるんじゃないこれ？」

逃げ切りを確信する明久。

当麻「此処で油断したら捕まるな…。」

最後まで気を張る上条。

ハンター「…。」

二人に近づくハンター…。

当麻「…やべえいた！」

明久「えええええ！！！？？」

ハンター「…！」

ハンターが二人の姿をとらえた。

当麻「すまん！」

明久「ちよつと待ってええ…！！！」

上条が吉井を抜かし、ハンターの標的が吉井に変わった。

明久「嫌だあああ…！！！」

ポン

吉井明久 確保 残り 6人

明久「う、嘘だよ…。」

現在残っている逃走者は6人。ゲーム残り時間は4分32秒。

ななこ「やばいでえ…。」

憂「あれ違うのかな？違うか…やばい、黒い服の人が全員ハンターに見える…。」

マリオ「なんだこの緊張感は…。」

姫路「あれ違いますか…?」

遠くにハンターを見つけた姫路。

姫路「逃げましょう…。」

距離を取る姫路。しかし、逃げる先に別のハンター…。

姫路「…えっ!?!?こつちにもですか!?!?」

見つかった…。

姫路「キヤアア!?!」

ポン

姫路瑞希 確保 残り 5人

姫路「あと少しでしたのに…。」

ななこ「『姫路瑞希確保。残り5人。』」

文乃「どんどん捕まっていくなね…。」

ゲーム終了まであと2分！

憂「だんだん緊張してきた…。」

マリオ「あと少し…。」

当麻「うおお…やべえ…。」

憂「1分30秒…。」

ななこ「逃げ切るで…。」

文乃「…ここまで緊張することって普段ないのよね…。」

マリオ「胸が苦しくなってきた…。」

ななこ「息苦しいなあ…。」

ゲーム終了まであと1分！

ななこ「1分切ったで…！」

当麻「あと少しだ…。」

マリオ「…！ハンター！」

ハンターを見つけたマリオ。

マリオ「不味い…！」

しかし、距離があつたためハンターをまいた。

マリオ「はあ…はあ…今来られたら捕まるな…。」

ゲーム終了まであと30秒！

ななこ「マジかいな…。」

文乃「絶対逃げるわよ…。」

当麻「早く時間たてよ…。」

憂「やばい…。」

マリオ「あと少しだ…。」

10!

9!

8!

7!

6!

5!

4!

3!

2!

1!

黒井ななこ・マリオ・上条当麻・芹沢文乃・平沢憂
ndステージ進出
逃走成功
2

ななこ「や、やった〜！」

マリオ「よっしゃー！」

当麻「やったぞー！」

憂「なんとか行けたよ…。」

文乃「よかったわ…。」

つかさ「5人逃走成功！」

ふゆき「すごいですね〜。」

雄二「まあとにかくよくやったな！」

ぱちぱちぱちぱち…。

雄二「で、今俺らに30万円獲得となったわけだな！」

ハヤテ「じゃあ行きましょうか！」

律「絶対逃げ切るぞ〜！」

美琴「絶対前のリベンジ果たす…！」

次回、2ndステージ、スタート。

1stステージ終了！（後書き）

次回の逃走中についての情報が少し判明いたしましたね。

他に誰がいるか、楽しみです。

2ndステージ開始！（前書き）

やばい！ミッションが思いつかない！

それと「いつ天」！

録画しといて見れる時間がない…。

ああ〜どうしよう…。

2ndステージ開始！

西エリア

ゲーム開始前、エリアに散らばる逃走者たち！

やまと「さて…どこに行きましょうか…。」

ふゆき「見晴らしのいいところに行くか見つかりにくいところに行くか…。」

康太「…いいところ見つけた…。」

マリオ「2ndステージに勝ち進んだ実力をを見せてやるぞ！」

ルイージ「兄さんには勝ちたいな…。」

律「あつ…もうそろそろゲーム始まる…。」

2ndステージ開始まで…。

5！

4！

3！

2！

1！

プシュー！ガコン！

ハンターボックスから5体のハンターが解き放たれた。

2ndステージでのゲームが始まった！

音無「始まった！」

ナギ「絶対逃げ切るぞ〜。」

2ndステージの舞台となる西エリアは天ノ海市の治安を守る『天ノ海警察署』、

独特の美術品が飾られている『天ノ海美術館』などがある。

エリアの広さは東京ドーム3個分。

逃走者は1stステージを逃げ切った逃走者と合わせて26人がこ

のエリアを逃げる。

賞金は1秒200円ずつ上がり、ゲーム時間100分を逃げ切れれば1stステージの賞金と合わせ、賞金150万円を獲得できる。

自首はエリア内にある公衆電話から申告することでそれまでの賞金を獲得できる。

ただし、エリア内には5体のハンター。彼らに捕まれば賞金は、0。

アイク「俺前回鉢合わせで捕まっているんだよね…。だから今回はあまり動かずに隠れておく。」

美琴「2〜3体同時に来られなければ逃げれると思うわ。だから運だと思うの。」

ハンターは神出鬼没。いつどこで出会つかわからない。

山崎「怖〜…どっから来るんだよ…。」

ハンターにビビる山崎。

山崎「ともかくな〜…どうしようかな〜…。」

スタッフ「ハンター来たらどうします?」

雄二「とりあえず走って距離を取る。俺足には自信はあるからな!」

余裕の雄二。そこに…。

ハンター「…。」

ハンター…。

雄二「角を何回か曲がって距離を取っていけば…。」

雄二は気付いていない。

ハンター「…!」

見つかった…。

雄二「いけると思う…ってやべえ!見つかった!」

しかし、近くにもう1体のハンター…。

雄二「はあ!?!こつちにもいるのかよ!?!」

挟まれた…。

雄二「ちくしょおおお!?!?!?!」

ポン

坂本雄二 確保 残り 25人

雄二「くそ！最初に捕まるなんてな…。」

ピリリリ…ピリリリ…。

ハヤテ「『坂本雄二確保。残り25人。』って早すぎませんか!？」

康太「…雄二がもう捕まった…。」

アイク「ええええ!？まだ始まって…5分も立ってないぞ!？」

ガノンドロフ「大口叩いてた割には情けない奴だ…。」

近藤「この公園に隠れるのはいいのか？」

スタッフ「はい。かまいません。」

近藤「そうか。じゃあここにいるとしよう。」

公園に身をひそめる近藤。

小萌「上条ちゃんも逃げているので一緒に頑張りたいです。」

当麻「先生、とりあえず分かれませんか？」

小萌「嫌です！上条ちゃんが心配なんです！」

当麻「はあ…なんだかなあ…。」

康太「今自首したら30万以上…。」

自首は、公衆電話から申告することで自首が成立する。

康太「まだ早いかな…。もうちょっと待つかな…。」

ななこ「今何時や？」

現在時刻はAM10時。少し人が目立ってきている。

ななこ「これじゃあ間際らしくなってくるなあ…。」

アイク「ハンターいるかな…。」

アイクが何かを見つけた。アイクが見つけたのは…。

アイク「…。」

頭に丸い白いかぶり物をかぶった人が何もせずに立っている。横では饅頭を売っていた。

アイク「…見なかったことにしよう…。」

ハヤテ「…これ何ですか？ずっと気になっているんですけど…。」

ハヤテが気になっているのは自分の腕に付けられている装置。装置には点滅する場所がある。

ハヤテ「何でしょうかね…。」

この装置が、のちの逃走劇に大いに関わることとなる！

千早「あまりこつゆつのは好きではないんですが…。」

春香「まあまあ、頑張ろうよ千早ちゃん。」

千早「あなたがそう言うのでしたら…。」

やまと「…！メール…ミッション4…。」

なの「『これより、天ノ海ショッピングモールを残り時間80分まで侵入可能とする。』」

アイク「『しかし、中には6体のハンターが入ったボックスがあり、』」

つかさ「『残り85分になるとエリアに放出される。』」

春香「『阻止するにはショッピングモール内からハンターボックスを見つけ出し、ハンターボックスについてあるボタンを押し、ロックしなければならぬ。』」

憂「『ただし、残り80分までにショッピングモール内に残っていたものは強制失格となる。』」

ミッション？ ハンター放出を阻止せよ！

天ノ海ショッピングモールに6このハンターボックスが設置された。残り85分になるとハンターが放出される。

阻止するにはボタンを押し、ロックしなければならない。

ただし、ショッピングモール内に残り80分まで残っていたものは強制失格となる。

アイク「行くぞ！」

やまと「残り85分に封印して残り80分までに脱出すればいいんでしょ？」

飾利「行ってみたいですな…挑戦してみます！」

再び逃走者たちにさらされるハンター放出の危機。

すべて封印することができるのか!?

2ndステージ開始！（後書き）

これから受験のための勉強…。いろいろな忙しくなってきました。

そして秋には体育祭。火、木の夜は習い事…。

多分これらの理由で更新が遅くなる場合があります。

けどなるべく更新できるよう頑張ります。

MISSION? 1

天ノ海ショッピングモールに6個のハンターボックスが設置された。

このままではハンターが放出され、確保の危険が高まってしまう。

果たして、ハンター放出阻止に向かうものはいられるのか!?

ゲーム終了まで94分32秒。

春香「折角呼ばれてるんだから行ってみます!」

マリオ「もちろん行くさ!」

律「行くぜ!」

憂「行ってみようかな...。」

文乃「行ってみるわ。」

美琴「もちろん行くわよ!」

音無「行ってみようかなあ...?」

ふゆき「怖いのです…行きません…。」

ルイージ「ハンターいる中で動くの!? いやだよ…。」

ガノンドロフ「俺はこんなには興味ねえな。」

やまと「しかし…ショッピングモールは遠いわ…。」

シヨッピングモールまで、距離がある永森。

やまと「でも行ってみるだけ行ってみるわ。」

ナギ「誰かやってくれないのか…。」

ミッションに他人任せなナギ。

ナギ「でもハヤテは行くな!」

ハヤテ「はあ…何ですか?」

ナギ「え、いや、あの…その…とにかく!私を守ってくれ!」

アイク「(何やってんだあいつら?)」

遠くから二人を眺めるアイク。

アイク「（しかもハンターに気付かれるような声出して…これでは
れたらどうすんだ？）」

ナギ「ハヤテ！あっちに行くぞ！」

ハヤテ「そうですか。」

アイク「あ、あっちに行った…。」

しかし、近くに…ハンター…。

アイク「…！いるなあ…。」

ハンターを見つけ身を隠す。

アイク「…過ぎて行った…。」

どうやらばれなかったようだ。

アイク「あいつらの方に行ったか…。」

ハヤテ「…！お嬢さま、ハンターいます。」

ナギ「何！？ほんとか!？」

二人は近くの影に身を隠す。

ハヤテ「…。」

ハンター「…。」

ナギ「…おいハヤテ…全然見えないぞ…。」

ハヤテ「もうちょっとお待ちください…。」

ハンター「…。」

無事に過ぎて行った。

ハヤテ「危なかったですね…。」

ナギ「そうなのか？」

やまと「なんとか着いたわ。」

ショッピングモール前についた永森。

やまと「しかしこの広い中からどうやって探せば…。」

ショッピングモールは5階もの階層があり、駐車場もかなり広い。

一部はエリア外となっている。

あと、ショッピングモールは2つの建物からなっており、その間に空中歩道がある。

やまと「…ハンターボックスの位置って書いてあるわ。」

永森が見つけたのはハンターボックスが置かれている場所が書いてあるホワイトボードだった。

やまと「…すべて駐車場にあるのね…で、一部はエリア外だからエリア内になっているところを探せばいいのね。」

ハンターボックス封印に向かう。

美琴「此処ね！」

飾利「はあ…はあ…早いですね…美琴さんは…。」

律「着いたぞ！」

ショッピングモールについた3人。

美琴「ヒントが書いてあるわ。」

飾利「此処のあたりを探せばいいんですね。」

音無「この信号を渡ればいいのか。」

現在、ミッションに向かう音無。

音無「しっかし信号長いな…。」

信号に足止めを食らう。

その近くにハンター…。

音無「…ってハンターいるのかよ!…!」

ハンター「…!」

ハンターも音無の姿をとらえた。

音無「やべえええ!…!…!」

建物の角をうまく使い…。

ハンター「…?」

まいた…。

音無「あぶねえ…。」

そのハンターが…。

山崎「この近くかな?」

MISSION? 1 (後書き)

ご感想、評価ポイントが…。

MISSION? 2 (前書き)

次回の逃走中の逃走者が判明いたしました！

楽しみですねぇ。

アイク「サブタイトルもあれの続きか？」

多分そうじゃないですか？

アイク「これは…録画して当日は確実にみるしかないな。」

楽しみに待ちましょうか。

アイク「そうだな。」

MISSION? 2

やまと「ないわね…。」

ハンターボックスを探すやまと。

やまと「まあ駐車場じゃないからね。」

美琴「こつちね…。」

飾利「ハンター…いませんよね?」

律「今ん所見かけてないな。」

美琴「この先よ…。」

音無「…ハンターいるな…。」

遠くにハンターを見つけた音無。

音無「でも信号渡った先だから大丈夫か。今のうちに離れておこつ。」

スタッフ「ミッションには行きますか?」

如月「任せます。」

康太「…！ハンター発見…。」

ハンターを見つけたムツツリーニ。

ハンター「…。」

康太「…早く行ってくれないかな…。」

ハンター「…。」

康太「…無事に行ってくれた…。」

どうやら見つからなかったようだ。

康太「俺は隠れとく。」

ミッションに興味は無いらしい。

ハンター「…。」

ハンターが…。

当麻「どこかいい場所は…。」

小萌「あんまり悩まない方が良いですよ？」

二人に接近！

ハンター「…。」

当麻「うん…ってやべえ！」

ハンター「！」

見つかった…。

当麻「うわあああ！！！」

小萌「ええ！？」

上条が月詠を追い抜いた！

小萌「ひゃあああ！！！」

ポン

月詠小萌 確保 残り 23人

小萌「上条ちゃん…。」

ガノンドロフ「『月詠小萌確保。残り23人。』だとよ。」

当麻「先生…すみません…。」

やまと「ここね。駐車場。」

駐車場に着いたやまと。

やまと「！これねハンターボックス。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り5個

やまと「この調子で封印していきましょつ。」

ルイージ「ハンター怖いよ…。」

ハンターに怯えるルイージ。

ルイージ「ハンターもさ…あんな無表情で怖いよ…携帯の待ち受け

画面もさ…こんなデザインだし…のどがカラカラなんだよ…。」
いろいろ愚痴をこぼすルイージに…。

ハンター「…。」

ハンターが接近！

ルイージ「はあ…もう疲れた…!!」

ハンター「…！」

ハンターに見つかった！

ルイージ「うわあああ!!怖いよ!!助けて!!」

悲鳴を上げながら逃げるルイージ。

ルイージ「嫌!!ぎゃあ!!」

ポン

ルイージ 確保 残り 22人

ルイージ「うぐ…怖かった…。」

マリオ「ああっ！ルイージが捕まった！」

ふゆき「此処から近いですね…。」

美琴「駐車場に着いたわ！」

飾利「早く探しましょう！」

やまと「2つ目、と。」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り4個

やまと「あと4つは…どこかしらね…。」

律「見つけた！」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り3個

飾利「これですね！」

ガシャン！

ハンターボックス封印 残り2個

美琴「見つからない…って時間がやばいじゃない！」

やまと「無いわね…。」

時間は86分と迫ってきている。

ハンター放出はすべて防げるのか！？

M I S S I O N ? 2 (後書き)

次回、ミッション?終了!

MISSION?3 (前書き)

お詫び

訂正 前回の最後の時間が84分となっていましたでしたがすでにハンターが放出する時間だったので86分に書きなおしました。

本当にすいません。

当麻「誰だって間違いはあると思うぞ?だからあまりへこまなくても...。」

ちよくちよくこうゆう間違いがあるかと思えます。

これから気をつけていきます。

（izumi）

ナギ「自分の小説内で間違いを見つけ次第訂正すると言っていた。」

近藤「こうゆうやつだが、これからもよろしく。」

これからもよろしくお願いします。

MISSION?3

美琴「あとどこにあるのかしら。」

律「うわっ…もう時間ないな…どうする?」

飾利「ギリギリまで探してみよう!」

美琴「そうね…一つでも封印しておきましょう!」

やまと「!あれ…!」

やまとが見つけたのはまだ封印できてないハンターボックス。

やまと「時間ない!」

果たして、間に合うのか!?

やまと「着いた…よっ!」

ガシャン!

ハンターボックス封印 残り1個

やまと「とりあえず…ここから離れる。」

ハンター放出まであと30秒！

美琴「一体どこにあるの…。」

飾利「！あれそうじゃないですか！？」

律「ほんとだ！」

ハンターボックスを見つけたがその距離は300メートル。間に合うのか！？

美琴「一か八か！」

ハンター放出まで…20秒…。

美琴「…間に合え…！」

15…。

律「大丈夫かな…。」

美琴「間に合った！それっ！！」

2
∴。

3
∴。

4
∴。

5
∴。

6
∴。

7
∴。

8
∴。

9
∴。

10
∴。

ガシャン！

ハンターボックス封印 MISSION CLEAR

美琴「ま、間に合った…。」

つかさ「ミッション結果…『ハンターボックスはすべて封印され、ハンターの放出は無し。』」

ななこ「すごいなあ…。」

巧「なんだかミッションに参加できないと申し訳ない気持ちなるね…。」

なの「つ、次は参加しよう…。」

美琴「つてあと80分でここ閉鎖されるんだっ！」

飾利「早く脱出しませんと…！」

やまと「…こっち…。」

ハヤテ「…！お嬢さま！ハンターです！」

ナギ「な、何！？」

ハンターに見つかった二人。

ハヤテ「僕がハンターを引きつけます！お嬢さまはその間に逃げて下さい！」

ナギ「で、でもハヤテを置いていくことは…。」

ハヤテ「僕は…お嬢様の執事です。」

ナギ「…ハヤテ！捕まるなよ！」

ハヤテ「はい！」

ハヤテがハンターを引き連れて行った。ナギはその間に逃げられたようだ…。

ナギ「…ハヤテ…。」

ハヤテ「…やっぱり速いですね…。でも僕だって負けていませんよ！」

人間とは思えない驚異の身体能力で逃げるハヤテ。

ハンター「…？」

ハンターをまいてしまった。

ハヤテ「無事に…行けました…。」

ハンター「…。」

ハヤテを見失ったハンターが…。

康太「…。」

ムツリー二に接近！

ハンター「…！」

康太「…！不味い…！」

隠れていたため逃げるのが遅れた。

康太「…っ…！！！」

ポン

土屋康太 確保 残り 21人

康太「…捕まった…。」

ムツツリーニ、無念の敗北…。

ピリリリ…ピリリリ…。

ふゆき「えーとなんでしようか…？確保情報…。」

近藤「『土屋康太確保。残り21人。』…。」

ナギ「…ハヤテ、無事逃げたか…よかった…。」

やまと「…脱出…。」

永森やまと 脱出

現在封鎖エリアに残っているのは田井中律・御坂美琴・初春飾利の3人。果たして、無事脱出できるか！？

美琴「もう少しよ…！」

飾利「はあはあ…待って下さい…。」

封鎖まで…1分！

律「あそこだ！」

美琴「…よしっ！こっちよこっち！」

律「おお〜…危ね〜…。」

田井中律・御坂美琴 脱出

残るは、初春飾利！封鎖まであと20秒を切った！

飾利「不味いです…もうすぐ封鎖されます…。」

間に合うのか！？

10…。

9…。

8…。

7…。

6…。

飾利「で、出れました〜！」

初春飾利 脱出 MISSION CLEAR

美琴「ギリギリだったわ…。」

律「よかった…。」

現在残っているのは21人！

果たして、逃げ切るものは現れるのか！？

牢獄DEトーク2(前書き)

今回の牢獄DEトークは結構長いです。

牢獄DEトーク2

牢獄DEトーク

こなた「えーと…80分切って逃げているのは21人かあ…。」

雄二「結構逃げているな…。」

小萌「それとさっきの子が捕まったから…。」

こなた「『バカテス』組、全滅だね。」

バカテス組「はあ…。」

康太「捕まった…。」

山崎「まあ捕まった時の話は牢獄の中で…。」

ギー…カチャ

スネーク「なあ…一つ思ったんだが…。」

スネーク以外「？」

スネーク「誰が逃げ切るか予想してみないか？」

明久「それいいね！」

スネーク「言っとくけど当たっても何も無いぞ？」

明久「え、そうなの!？」

真「なんであると思ってたんですか…?」

明久「はあ…。」

雄二「ルールは何だ？」

スネーク「今逃げている人から一人、逃走成功すると思う人を一人、この紙に書く、これだけだ。」

雄二「ほお…シンプルだな。」

スネーク「当たっても何も無いからな。(二回目)じゃあ今から予想タイムだ。」

〈予想中〉

スネーク「よし、全員決めたか?どうなったか…。」

泉こなた 御坂美琴

小早川ゆたか 永森やまと

岩崎みなみ 永森やまと
スネーク マリオ
中野梓 平沢憂
マリア 綾崎ハヤテ
桂ヒナギク 綾崎ハヤテ
神楽 芹沢文乃
吉井明久 田井中律
島田美波 御坂美琴
姫路瑞希 御坂美琴
インデックス 綾崎ハヤテ
高槻やよい 如月千早
菊地真 田井中律
ゆり 音無結弦
相生祐子 アイク
ルイーダ マリオ
山崎退 近藤勲
土屋康太 芹沢文乃
坂本雄二 音無結弦
月詠小萌 上条当麻

スネーク「ある程度人気のやつがいるか…さて、どうなるか…。」

つかさ「怖いよ…うう…。」

建物の影に隠れるつかさ。

つかさ「まだまだ時間は長いなあ…。」

ななこ「えっといまなんぼや…？56万！」

現在残り時間は77分59秒。賞金は56万4200円である。

ななこ「うわあ…自首したいけどな…教師がするってのは…。」

公衆電話から自首を申告すればそれまでの賞金を獲得できる。

ななこ「アカンアカン！自首は！最後まで行くで！」

飾利「…黒い服の人が増えてきた…。」

現在、11時ごろなのでたくさんの方が行き来している。

飾利「どれがハンターかわからない…。」

アイク「此処…いいんじゃないか？」

アイクがやってきたのは公園。

アイク「此処に隠れさせてもらうとするか。」

茂みに隠れるようだ。

アイク「結構いいば…！！」

アイクがハンターを見つけた。

アイク「見つかるな…。」

ハンター「…。」

見つからなかったようだ…。

アイク「うお…ビビった…。」

ナギ「このあたりにいるのか…。」

地図で自分の場所を確認しているナギ。

ナギ「此処ハンターを見つけやすいし、いったんここにいるか…。」

今ナギがいるのは見晴らしが良い場所。ここはハンターを見つけやすいがハンターに見つかりやすかったりもする。

ナギ「ハヤテと合流しないと…。」

ふゆき「ハンター怖いですね…。」

エリア移動中の天原。そこに…。

なの「誰かいないかな…！」

東雲だ…。

なの「あつ、あの…。」

ふゆき「あつ、東雲さん…でしたっけ？」

なの「ハンターいませんでした…？」

ふゆき「今のところは大丈夫です。」

なの「そうですか…よかったですあ…。」

ふゆき「一緒に行動しませんか？二人でいると何かあった時対処しやすいんで…。」

なの「あ、わかりました…。」

二人で行動を共にするようだ。

巧「此処結構見通し悪いな…。」

入り組んだ場所にやってきた都筑。

巧「これじゃどこからハンター来ても分かりにくいな…。」

彼に近づくと…黒い影…。

巧「はあ…早く抜けない…!!」

ハンター「!!」

ハンターと、出会ってしまった…。

巧「不味い…近すぎる…うわああ!!!!」

ポン

都筑巧 確保 残り 20人

巧「はあ…文乃になんて言われるかな…。」

アイク「メール…『都筑巧確保。残り20人。』」

文乃「た、巧…。」

近藤「…。」

身をひそめる近藤。

近藤「まだ長いな…。」

彼に近づく…黒い影…。

近藤「…背後から気配が…！」

ハヤテ「うわ！…びっくりしましたよ…。」

綾崎だ。

近藤「びっくりしたぞ…。」

ハヤテ「こっちもですよ…。」

近藤「どうだ？一緒に行動しないか？」

ハヤテ「え、えと…遠慮しときます。」

近藤「そうか…気をつけるよ！」

ハヤテ「あ、ハイ…。」

千早「ハンターと言うものはどれだけのものなのでしょうか…？私はまだ会っていないんですが…。」

ハンターは驚異の持久力とスピードを兼ね合わせている。見つければ、逃げ切るのは容易ではない！

千早「天海さんは大丈夫でしょうか…。」

スタッフ「賞金の使い道は？」

春香「えっと…みんなと一緒に楽しいところに行きたいです。」

マリオ「使い道な…うん…ピーチ姫と一緒に旅行でも行きたいな…。」

当麻「とにかく生活費にあてる…やばいんだ今…だから逃げ切らないうと…。」

律「…これなんだろうな…。」

田井中が気になっているのは腕に付けられている装置。

律「後でミッションに使うものだったりしてな…。」

美琴「とにかく今回は逃走成功したい！前回ほんとおしいところまで行ったから！」

前回残り1分で捕まってしまった美琴。

美琴「絶対逃げ切りたい！」

やまと「…！あれは…。」

やまとが遠くに何かを見た。それは…。

ハンター「…。」

ハンターだ…。

やまと「隠れなきゃ…。」

近くの影に隠れるやまと。

ハンター「…。」

やまと「…。」

ハンター「…！」

やまと「…！」

やまとがハンターに見つけた…。

やまと「…あっちの方に向かって行ったわ…。」

わけではなかった。どうやら別の逃走者が見つかったようだ。

やまと「一体だれが…。」

ハンターに見つかったのは…。

近藤「…何いいい！？ハンターだとおおお！？」

近藤だ…。

近藤「あああああ！！！」

ポン

近藤勲 確保 残り 19人

近藤「ええええええ！？マジかアアア！」

真撰組局長でも、ハンターにはかなわず…。

ガノンドロフ「ほう…近藤と言う奴が捕まったか…。」

やまと「多分この人が捕まったのね…。」

ハヤテ「あ、さっき会ったのに…。」

アイク「…20人切ったか…。」

姫路「『近藤勲確保。残り19人。』」

全員「ああ…。」

神楽「キャツホー！！ゴリラ捕まったアル！！」

ルイージ「ええ！？何で喜んでるんだよ！！」

神楽「お前口出しするなアル。緑野郎。」

ルイージ「酷っ！！」

スネーク「言いすぎだぞ。」

神楽「段ボールバカも黙ってほしいアル。」

スネーク「段ボールをバカにするとは…許せんな…。」（怒）

梓「す、スネークさん落ち着いて…。」

スネーク「あ、ああ…。」

音無「逃げれるか…って何だこれ!？」

春香「…!?なんですか!？」

御坂「腕の装置が光りはじめたわよ…。」

突如、逃走者に付けられていた謎の装置が発光を始めた。これは一体どうゆうことなのか。

つかさ「えっ!?!えっ!?!」

彼らにミッションが降りかかる!

MISSION? 1 (前書き)

サブタイトルちょっと変えてみました。

ミッション中のサブタイはこれからこれで行きます。

MISSION? 1

音無「逃げれるか…って何だこれ!？」

春香「…!?なんですか」

美琴「腕の装置が光りはじめたわよ…。」

突如、逃走者の腕に付けられている謎の装置が発光を始めた。一体どうゆうことなのか。

つかさ「えっ!?!えっ!?!」

ピリリ!ピリリ!

アイク「ミッションか…!」

やまと「ミッション?。『君たちの腕に付けられている装置が発光を始めた。』」

ななこ「『残り60分を過ぎると強制失格…。』ってええ!?!強制失格!?!」

ふゆき「『強制失格となる。』」

律「『強制失格を免れるには他の逃走者が持つカードキーを装置に通さなければならぬ。』」

憂「『ってことは…他の逃走者と会わなければいけないってこと?』」

ナギ「絶対に動かないといけないのか…。」

ガノンドロフ「…くそっ!!」

ミツシヨン? 強制失格を免れる!

突如、逃走者の腕に付けられている装置が発光を始めた。

このままでは残り60分になると強制失格となる。

強制失格を免れるには他の逃走者が持つカードキーを腕の装置に通さなければならぬ。

ちなみに、カードキーは何回でも使用可能だ。

やまと「近くに誰かいたかしら…。」

ハヤテ「お嬢様との合流を目指します…!」

ふゆき「あつ、東雲さん…。」

なの「カードキー、ですよね?」

偶然一緒に行動していた二人。

ふゆき「早く通しましょう!」

なの「あ、はい!」

カチャ、ピー！

カチャ、ピー！

天原ふゆき 東雲なの MISSION CLEAR

なの「…あつ！消えました！」

ふゆき「よかったです…。」

しかし、他の逃走者たちは他の逃走者と出会わないといけない！

つかさ「どうしよう…動くと思ってもハンターがいるから怖いし…。」

しかし、ハンターの存在が逃走者たちをまどわす！

つかさ「早く誰かと合流しよう！」

ガノンドロフ「誰かが通りすぎるまで待つ。」

誰かが来るのを待つガノンドロフ。

ガノンドロフ「俺は絶対に動かない。」

音無「誰がいるか…!?」

美琴「…!こつちこつち!」

飾利「美琴さん!」

御坂と初春が、合流。

美琴「このカードキー早く通しましょう!」

飾利「はい!」

カチャ、ピー!

カチャ、ピー!

御坂美琴 初春飾利 MISSION CLEAR

美琴「これでいいのよね…?」

飾利「よかったあ〜…。」

当麻「誰か近くに…!おーい!」

千早「あれは…。」

当麻「早く通そうぜ！」

千早「ええ……。」「

ハンター「……。」「

カチャ、ピー！

当麻「じゃあ次はこっち……。」「

千早「！ハンターよ！」

当麻「えええええ！？」

ハンターを見つけ、逃げる二人。しかし……。

千早「速い速い……。」「

当麻「あいつの方に行ったようだな……って待てよ？俺まだしてもらってないいいいい！！！！」「

当麻は装置を解除していない！

如月千早 MISSION CLEAR

千早「速い…ああ！」

ポン

如月千早 確保 残り 18人

千早「もつと周りを見ておけば…。」

当麻「『如月千早確保。残り18人。』あいつ捕まっちゃった…。」

「一から、やり直した…。」

当麻「不幸だあ…。」

律「おっ！いたいた…。」

美琴「ミッションまだ？」

律「まだクリアしてないんだ！」

美琴「いいわよ。」

カチャ、ピー！

律「助かったぜー！」

春香「あの…誰かいませんか…？」

アイク「くそ…ハンターが気になって動けねえ…。」

マリオ「…！ハンター…。」

ハンターを発見して身を隠すマリオ。

マリオ「気付くなよ…。」

ハンター「…！」

マリオ「不味い！」

気付かれた…。

マリオ「うおおおおお…！！！」

建物の角を曲がり距離を広げようとするが…。

マリオ「不味い不味い不味い…！！うわああ…！！！」

ポン
マリオ 確保 残り 17人

マリオ「くそ〜…油断した〜…あ〜…。」

アイク「『マリオ確保。残り17人。』マリオが捕まった…。」

ななこ「逃走者減ってきたらミッションクリアするのが難しくなるなあ…。」

ハヤテ「お嬢様〜…どこですか〜…?」

ナギ「ハヤテ〜…一体どこなのだ〜?」

音無「!おい、こつちだ!」

つかさ「あ…。」

音無が柵を発見。

音無「やるぞ…。」

つかさ「うん…。」

カチャ、ピー!

カチャ、ピー！

音無結弦 柊つかさ MISSION CLEAR

音無「お！止まった！」

つかさ「あ、発光止まった…ありがとう…。」

音無「いやいや…。」

アイク「不味いぞ…誰もいない…。」

文乃「いないの誰か…！？」

ガノンドロフ「誰も通らないな…。くそっ…動くか…。」

やっと動いたガノンドロフ。

現在クリアできているのは7人。ミッション終了まであと6分。全員クリアできるのか！？

MISSION? 2 (前書き)

ポケモンBWの知らない人との通信交換をやってみた。

すると、欲しかったイーブイがやって来た！

大切に育てる！そしてグレイシアに進化させる！

(ちなみにプラチナにもグレイシアはいます。Lvは1000です。
あとリーフィアもいます。こっちは1000です。)

知らない人との通信対戦もやってみた。

…一瞬で負ける。

強い人の戦法を勉強しよう。

…あ、ポケモンの話になってましたね。

では逃走中どうぞ！

MISSION? 2

ミッション?が発動された。残り60分までにクリアしないと強制失格となる。

果たして、逃走者たちはミッションクリアできるのか!?

ガノンドロフ「誰もいねえな...。」

他の逃走者を探すガノンドロフ。

ガノンドロフ「時間がねえ...。」

ナギ「ハヤテ...どこなのだ...?」

ハヤテを探すナギ。

ハヤテ「どこですか...。」

ナギを探すハヤテ。

ハヤテ「!」

ハヤテが何かを見つけた。見つけたのは...

ハヤテ「こんな時にですか…。」

ハンターだ…。

その近くに…。

当麻「…お？あれ誰だ…ハンターいるな…。」

上条だ。上条もハンターに気付いているようだ。

ハヤテ「兎も角離れましょう…。」

当麻「…あつ…向こうに行った…。」

ハヤテは上条に気付いていないようだ。

当麻「ハンター離れたら会いに行こう…。」

ハヤテ「！お嬢さま！」

ナギ「は、ハヤテ！遅かったぞ！」

ハヤテ「すみません。」

ナギ「兎に角、早くやるぞ！」

カチャ、ピー！

カチャ、ピー！

綾崎ハヤテ 三千院ナギ MISSION CLEAR

ナギ「ハヤテ！これからは一緒に行動するぞ！」

ハヤテ「はい。」

アイク「どこだよ…誰とも会わない…。」

逃走者を探すアイク。そこに…。

ハンター「…。」

ハンターが接近…。

アイク「くそっ…っってうおわ！」

ハンター「！」

気付かれた…。

アイク「くそっ…ここで終わるのかよ…。」

アイクが逃げる先に…。

やまと「…ハンター連れてきてる…。」

永森だ…。

やまと「こつちに…。」

建物の影に隠れる永森。

アイク「うわっ…うわあ…。」

その間にアイクとハンターの距離は縮まる…。

アイク「何だよおおおお！！！！！」

ポン

アイク 確保 残り 16人

アイク「…また終わった…。」

やまと「…捕まった…。」

アイクが捕まるところを見てしまった永森。

やまと「アイクさん…。」

当麻「よし、今行くか…。」

ハンターが離れ、はやてがいた場所に向かう上条。

当麻「…あれ？もういない…。」

しかし、ハヤテはすでにいなかった。

当麻「…ふ、不幸だああ…!!」

飾利「全員クリアできてるんでしょうか…。」

現在クリアできてないのは平沢憂、黒井ななこ、上条当麻、芹沢文乃、永森やまと、ガノンドロフ、天海春香の7人。

ななこ「アカン！時間が…。」

文乃「不味いわ…。」

憂「あ、あれは…。おーい！」

音無「ん？誰か呼んでいる…。」

音無だ。

音無「まだクリアしてないのか？」

憂「そうなんだよ。」

音無「わかった。じゃあ通すから。」

カチャ、ピー！

平沢憂 MISSION CLEAR

憂「ありがとう！」

音無「いやいや。」「

美琴「…なんだか嫌な予感がするわ…。」

女の勘か…。

美琴「風も強いし…。」「

ふゆき「風…強いですね…。」

なの「そうですね…。」

ふゆき「嵐の前の静けさ…では無いですね…嵐ですね…。」

なの「何か起こるような気がします…。」

ハンター「…。」

御坂の近くにハンター…。

美琴「…！ほらね…。」

ハンター「…！」

ハンターに見つかった御坂。振り切れるか！？

美琴「…くっ！不味いわね…。」

御坂がいるのは天ノ海商店街。一本道なのでハンターまだ姿をとらえている。

美琴「…！脇道だわ…。」

脇道を見つけ、そこに逃げる御坂。

美琴「こっちに曲がってこっちに曲がり…。」

何度も道を曲がっていく。

ハンター「…？」

なんと、ハンターをまいてしまった。

美琴「なんとか撒けたようね…。」

ハンター「！」

美琴「なっ！？」

しかし、逃げた先に別のハンター…。

美琴「不味いわ、この距離では…。」

ポン

御坂美琴 確保 残り 15人

美琴「LEVEL5だと言つのに……ここで負けちゃうなんてね……。」

LEVEL5の一人の御坂美琴……ここで散る……。

ピリリ！ピリリ！

飾利「メール……確保情報……ええええ！？美琴さんが！？捕まった！？」

当麻「ビリビリ……マジかよ……。」

つかさ「あの御坂さんが捕まるなんて……。」

律「えっ！？あんなに足速いのに！？」

春香「嫌な予感がします……。」

ガノンドロフ「……何かあるな……。」

ななこ「あ！これ、解除！」

ふゆき「お、落ち着いてください……やりますので……。」

カチャ、ピー！

黒井ななこ MISSION CLEAR

ななこ「ありがとな。」

やまと「この近くに誰かいないかしら…。」

エリアを移動する永森。

やまと「…！ハンターだわ…。」

しかし、見つけたのはハンター…。

やまと「…。」

ハンター「…。」

どうやら見つからなかったようだ。

やまと「見つからなかったわ…。」

ガノンドロフ「くそ…誰とも会わ…！」

ハンターを見つけ引き返すガノンドロフ。

ガノンドロフ「こんな所につるつきやがって…。」

当麻「不味い不味い…あと2分しかない…。」

ミッション終了まであと2分！クリアできてないのは5人

全員クリアできるのか！？

MISSION? 2 (後書き)

僕の好きなあるゲームの最新作が発表！

これは楽しみだ！

MISSION?3 (前書き)

関係無いですが僕はオッドアイキャラが好きです。

音無「これが何になるんだ？」

いえ、何にもなりません。

ななこ「じゃあ何で言ったんや。」

MISSION? 3

ミッションをクリアできてないのは永森やまと、ガノンドロフ、芹沢文乃、天海春香、上条当麻の5人。

果たして、この5人はミッションをクリアできるのか!?

当麻「何でこう俺は人に合わないんだ?」

さつきから逃走者を探しているが全然見つからない上条。

当麻「不幸だあゝ…。」

ガノンドロフ「くそっ…近くに誰もいねえ…。」

未だにミッションをクリアできてないガノンドロフ。

ガノンドロフ「…電話があったか…。誰か呼ぶか…。」

ピリリ!ピリリ!

音無「あ…ガノンか…なんだ…?」

ガノンドロフ「俺まだクリアできてねえんだ。俺のどこまで来てくれねえか?」

音無『別にいいけど…一体どこにいるんだ？』

ガノンドロフ「あゝ俺か…今な…天ノ海警察署の前にいる。」

音無『あ、わかった。』

ピッ！

ガノンドロフ「なんとか呼べたな…。」

音無「…ってか警察に疑われたりしないのか…？あいつは…。」

ガノンドロフ「…それにしても警察か…嫌な響きだな…。」

春香「誰もいません…！誰かいました…。」

春香が他の逃走者を見つけた。見つけたのは…。

やまと「…！こっち…。」

永森だ。

春香「ミッションやってない？」

やまと「やってないわ。早くやりませう。」

春香「あ、わかりました。」

カチャ、ピー！

カチャ、ピー！

天海春香 永森やまと MISSION CLEAR

やまと「止まったわ…ありがとう。」

春香「こちらこそ。」

文乃「誰か…。」

ガノンドロフ「間に合うのか…。」

当麻「返事してくれ…誰かいないか？」

これでクリアできてないのは上条当麻、ガノンドロフ、芹沢文乃の3人となった！

彼らは、残り60分までに他の逃走者と出会い、カードキーを通してもらえなければ強制失格となる。

果たして間に合うのか！？

律「…！いた…。」

遠くにハンターを見つけた田井中。

律「見つからないように…。」

見つからなかったようだ。

律「はあ…ハンターがいると思うと気持ちが出ないな…。」

ふゆき「ふう…あつ、誰かいましたよ。」

なの「声かけてみます？」

二人が見つけたのは…。

文乃「どうしよう…！」

芹沢だ。

文乃「カードキー！通してくれない!？」

ふゆき「えっ?いいですよ…。」

カチャ、ピー!

芹沢文乃 MISSION CLEAR

文乃「止まったわ！ありがとう！」

ふゆき「いえいえ…。」

これで、止めてないのは上条当麻とガノンドロフになった！

ミッション終了まであと1分！

当麻「ちつくしよ…誰もいねえ…。」

ガノンドロフ「遅いな…。」

現在上条は他の逃走者を探していてガノンドロフは音無が来るのを待っている。

音無「遅れた…おーい！」

ガノンドロフ「…！やっと来たか…。」

音無「すまんすまん！」

ガノンドロフ「遅いぞ…まあ兎に角解除してもらわないとな…。」

音無「怒んなよ…やるから…。」

カチャ、ピー！

ガノンドロフ MISSION CLEAR

ガノンドロフ「全く…ひやひやしたぞ…。」

音無「いや、ハンター見かけたからさ…。」

これで残ったのは…上条当麻…。

当麻「いねえ…。」

ただ一人！

当麻「ちつくしよ…。」

他の逃走者を探す上条。

当麻「誰か呼ぼう…。」

ピリリ！ピリリ！

ハヤテ「はい、なんですか？」

当麻「ハヤテか？今俺な、美術館のどこにいるんだ。悪いが急ぎ足

…！」

ピッ！

ハヤテ「もしもし…もしもし！？…突然切られました…。」

上条が電話を切ったわけとは…。

当麻「こんな時にハンター来やがって…！」

ハンターに見つかっていた…。

当麻「最悪だ…！もう時間ねえし…！」

ミッション終了まであと20秒。

当麻「うわ…あ…！！」

ポン

上条当麻 確保 残り 14人

当麻「うわあ…もう時間なかったし…ハンターには見つかるし…」

不幸だあ……。」

ハヤテ「『上条当麻確保。残り14人。』上条さん、ハンターに見つかっていたんですか……。」

つかさ「あのさ……。残り60分で14人つて……。やばくない？」

音無「もう一つメール……。『全員が装置を解除し、強制失格は免れた。』」

文乃「よかったわ……。」

牢獄

当麻「くそ……。」

ゆり「……。すごい不幸オーラが漂っているわね……。どうかしたの？」

当麻「ミッション終了まで動いていたけど誰にも会わなかったんだ……。」

雄二「それは悲惨だな……。」

当麻「そして、ハヤテのやつに電話をかけていたらハンターには見つかると……。」

美琴「よっぽど不幸ね。」

当麻「はあ…。」

インデックス「とうま…私たちもう一回できないの？」

当麻「復活とかなかったら無理だろ…。」

インデックス「復活かあ…あつてほしいなあ…。」

美琴「そう祈るしかないのね…。」

やまと「1時間切ったわ…。」

音無「なんだか行けそうな気がしてきたぞ…。」

ガノンドロフ「ふっ…俺は絶対に成し遂げてやるぞ…。」

現在残り時間59分48秒。

残っている逃走者

平沢憂 黒井ななこ 芹沢文乃 柊つかさ 永森やまと 天原ふゆ
き ガノンドロフ 田井中律 綾崎ハヤテ 三千院ナギ 初春飾利
天海春香 音無結弦 東雲なのの14人！

MISSION?3 (後書き)

投稿遅れました…できるだけ頑張ります！

牢獄DEトーク3 (前書き)

もっともっと頑張らないと…。

更新を…。

てか牢獄DEトーク多すぎ。

牢獄DEトーク3

牢獄DEトーク

ゆたか「残り時間が1時間切ったよ。」

こなた「…意外と先生たち残っているね。」

みなみ「そうだね…。」

ゆり「音無君も頑張っているわね…。」

ヒナギク「ハヤテ君たちも頑張っているわ…。」

やよい「春香さんもまだ逃げています。」

アイク「あのガノンドロフが残っているのか。」

マリオ「足遅いからすぐ捕まると思ってた…。」

ルイージ「悪運じゃない?」

マリオ「そうか。」

梓「律先輩…がんばってください!」

当麻「全員逃げ切れたらいいのにな〜。」「

スネーク「いや、多分誰か一人は捕まるぞ〜。」「

山崎「それにしても〜風強いですね〜。」「

如月「嵐になるわね〜。」「

明久「全滅でもするのかな〜。」「

美波「ちよつと明久！縁起でもないこと言わないでよ！」「

真「望みたくない結果だな〜。」「

ななこ「これいけるんちゃうか？此処まで残れるとは思つとかんか
ったわ〜。」「

やまと「まだ1時間あるのね〜時間の過ぎる感覚が遅く感じるわ〜。
」

春香「此処まで緊張したこと無いです〜。」「

音無「〜風が〜。」「

つかさ「あれは…違うか…黒い服の人が全員ハンターに見える…。」
春香「…！びっくりしました…普通に歩いている人でした…。」

現在エリアには5体のハンターが逃走者を搜索している。彼らは逃走者を見つけ次第、確保へと向かう。

文乃「あの美琴さんでも捕まってしまうんだからハンターってどれだけ早いんだよ…。」

ハンターは驚異の持久力とスピードを兼ね合わせている。見つければ、振り切るのは容易ではない！

ふゆき「そっちはいないですか…?」

なの「今はいません…。」

二人で行動する天原と東雲。今のところハンターは見かけていない。

なの「あそこに曲がり角がある…あそこ曲がってみます?」

ふゆき「そうしましょう…。」

近くの曲がり角へと向かう。

ふゆき「今は…このあたりですね。」

なの「その曲がり角…いい場所だと思っんですけど…どっちからか、来ても振り切れると思っんです。」

ふゆき「じゃあそこで見張りますか？」

なの「それが良いです。」

ハンター「！」

なの「ひゃあああ!？」

なんと、彼女らが向かっていた曲がり角からハンターが出現した！

ハンターが視界にとらえたのは…。

ふゆき「ハアツ…ハアツ…。」

逃げ遅れた、天原だ…。

なの「天原先生！」

ふゆき「東雲さん、あなただけでも逃げて下さい！」

なの「えっ…そんな…。」

ふゆき「二人捕まるより一人でも生き残った方がいいと思うんです
！」

なの「うっ…分かりました…うう！」

ふゆき「…っ！」

ポン

天原ふゆき 確保 残り 13人

ふゆき「逃げて下さいね…。」

律「おっ…メール…。」

なの「天原先生…。」

つかさ「ううう…先生が捕まっちゃったよ…。」

音無「…！ハンターか…。」

遠くにハンターを見つけた音無。

音無「でもな…ここは結構入り組んでいるから振り切りやすいんだ

よ！」

入り組んだ地形を利用し…。

ハンター「…？」

ハンターをうまくまいた。

音無「よし…うまくまいたな…。」

ハヤテ「お嬢様…ハンターいます…。」

ナギ「そうか…隠れるぞ…。」

近くの影に隠れるハヤテとナギ。

ハンター「…。」

ハヤテ「…。」

ハンター「…。」

ナギ「…。」

ハンター「…。」

上手く、やり過ぎたようだ。

ナギ「はあ…よかった…」

ハヤテ「まだ近くにいると思います。油断しないでくださいね。」

ナギ「そうか…分かった。」

ガノンドロフ「ハンターいねえな…！」

ハンターを見つけたガノンドロフ。近くの茂みに隠れる。

ハンター「…。」

ガノンドロフ「冗談じゃねえぞ…。」

ハンター「…。」

なんとかやり過ごしたようだ。

ガノンドロフ「なんとか行けたようだな…。」

現在残り時間5分17秒。残っている逃走者、13人。

ハンター「…。」

彼らがいる天ノ海市に近づく…。

ハンター「…。」

黒い影…。

ハンター「…。」

それは着実に近づいていた…。

ハンター「…。」

到着まで、43分17秒…。

牢獄DEトーク3 (後書き)

次のミッションどうぞしよっかな…。

MISSION? 1 (前書き)

だんだん放送日が近づいてきてる…。

楽しみだ。

MISSION? 1

ミッション? が終了し、残る逃走者は13人となった!

ゲーム終了まであと53分04秒!

果たして、逃げ切る逃走者は現れるのか!?

ビュオオオ…。

律「風が…強くなってきたな…。」

ゲーム時間が50分になるうとしている時、風が強くなってきた。

律「何か近付いてきている気がする…。」

つかさ「怖いよう…。」

草陰に身を隠すつかさ。

つかさ「自首…はダメだね…。」

公衆電話から自首を申告すればゲームからリタイアとなり、それまでの賞金を獲得できる。

つかさ「みんな頑張ってるんだから…私もがん…！」

ハンター「…。」

ハンターを見つけ、身をかがめるつかさ。

ハンター「…。」

つかさ「…。」

ハンター「…。」

無事、通り過ぎて行った。

つかさ「今…近くにいたよね…。もう少ししたら移動する…。」

ななこ「どこにいようかな…うん…。」

ピリリ！ピリリ！

ななこ「うお！なんやなんや！？…天海から電話や…。」

春香『あの…どこにいるんですか…？』

ななこ「今か？多分公園あたりや。」

春香『そっちハンターいませんか…？』

ななこ「今んとこ大丈夫や。」

春香「そうですか…あの、合流しませんか？一人でいるよりも二人でいる方がいいと思うんです…。」

ななこ「そうか…じゃあ合流しよか！公園の北側に…！」

ピッ！

春香「えっ！？…切れちゃった…何かあったのかな…？」

黒井が電話を切ったわけとは…。

ななこ「ハンター来たあ〜！」

ハンターに見つかっていた…。

逃げる黒井の近くに…。

飾利「あつ…追いかけてる…。」

初春…。

ななこ「アカン！距離が縮まってきたる！ハンター速すぎや〜！」

ポン

黒井ななこ 確保 残り 12人

ななこ「あゝもう回り気にしときゃよかったなあゝ…はあゝ…。」

ピリリ！ピリリ！

音無「『天ノ公園付近にて黒井ななこ確保。残り12人。』」

確保者「あゝ…。」

マリオ「1stステージ突破者がまた捕まってしまった…。」

スネーク「あと残っているので1stステージ突破者は誰だ？」

こなた「えつと…憂ちゃんと文乃ちゃんだったと思う…。」

明久「頑張ってほしいなあ…。」

飾利「あわわわ…。」

確保を間近で見た初春。

飾利「やっぱりハンター速すぎです…。」

ハンターが追いかける姿を見て、びっくりしてしまったようだ。

飾利「ハンター気付かずにきましたけど…やっぱり怖いです…。」

憂「お姉ちゃんや梓ちゃんのためにも頑張りたいな。」

姉、友達思いの憂。その背後から黒い影…。

憂「絶対に逃げ切る…わあ！」

文乃「うわあ！ちょっと…びっくりさせないでよね…。」

芹沢だ…。

憂「あつ、ごめんなさい。ハンターかと思っちゃって…。」

文乃「ハンターは今のところいないわ。」

憂「あ、ありがとうございます。」

文乃「所で…あなたはどこに行くの？」

憂「えっ？市役所付近にしようと思っんですが…。」

文乃「そう…じゃあ頑張ってね。」

憂「そちらも頑張ってください！」

文乃「やっぱり他の人と会つと…落ち着くわね…。」

ピリリ！ピリリ！

音無「ミッション?!」

つかさ「えーと…」エリア上空から通報部隊を12人投入した。
「通報部隊？」

ハヤテ「彼らは4人一組で行動し、逃走者を見つけるとその位置情報をハンターに通報し、確保へと向かわせる。」これは厄介ですね…。」

ナギ「通報を阻止するには天ノ海市役所内に置かれている煙麻痺玉を通報部隊に投げつけるしかない。」

飾利「なお、煙麻痺玉は君たち逃走者には効かないようにしてあるので安心してくれ。」

ミッション？ 通報を阻止せよ！

エリア上空から通報部隊が10人投入された。

彼らは、4人一組で行動し、逃走者を見つければその位置情報を八

ンターに通報し、確保へと向かわせる。
彼らの通報を阻止するには天ノ海市役所内に置かれている煙麻痺玉を投げつければ、彼らの動きは止まる。
なお、逃走者は煙麻痺玉の煙を食らってもしびれはしない。

なの「えーと…まずは市役所に向かえばいいんですね。」

憂「このまま向かえばいいんだ…よし、行こう！」

ハヤテ「此処から近いですね…。行きますか？」

ナギ「通報されると逃げ切る可能性は低いからな…行こうか！」

律「もちろん行く！」

文乃「行くわ！」

春香「行ってみましょう…。」

しかし、エリアには5体のハンターと通報部隊。彼らの視線をかいくぐなければいけない。

つかさ「怖い…このまま隠れる…。」

音無「距離があるからな…。任せる…。」

飾利「あの白い服の人たちがそうですね…今行っても見つかるだけです…。」

ガノンドロフ「行かないぜ。こんな面倒なことは他のやつがやるだろ。」

ミッションに非協力的なガノンドロフ。

ガノンドロフ「…！」

近くにいた通報部隊を発見。

ガノンドロフ「やつらがそつか…。」

通報部隊「…。」

ガノンドロフ「…。」

通報部隊「…。」

気付かれなかったようだ…。

ガノンドロフ「ハンターと一緒にやつらにも気をつけなければいけないのか…。」

そのガノンドロフに近づくと影…。

ハヤテ「あ、ガノンドロフさんじゃないですか。」

ハヤテとナギだ。

ガノンドロフ「なんだお前らか。ミッションには行くのか？」

ハヤテ「行きますよ。あとガノンドロフさんも行きませんか？」

ガノンドロフ「俺は行かねえな。行くやつがやればいいだろ。」

ナギ「そう言うな。市役所はこの近くにあるからお前もやらないか？」

ガノンドロフ「俺はやらなくて言うてるだろ。お前らがやればいいじゃねえか…。」

ハヤテ「やる人数が多ければミッションもクリアしやすくなりますよ！だから行きましょう！」

ナギ「そうだぞー！」

ガノンドロフ「ごちゃごちゃ言うな！頭が痛くなる…行けばいいんだろ…行けば…。」

ナギ「おおー！やっぱりそう来なくちゃな！」

ハヤテ「みんなでクリアしましょうか！」

ガノンドロフ「あとテメエら……。」

ナギ「何だ？」

ガノンドロフ「この近くに通報部隊がいた。まずそいつらをやっつけるぞ。」

ハヤテ「わかりました！」

ナギ「よし、行くぞ！」

ガノンドロフ「面倒だ……。」

現在のゲーム時間は46分42秒。

逃げ切るものは、いるのか……。

MISSION?2(前書き)

逃走中DVD!

特典映像が面白い!

MISSION?2

ミッション?が発動し、エリアに通報部隊が現れた。

彼らは逃走者を見つけると位置情報をハンターに通報する。

彼らの動きを封じるには市役所内にある煙麻痺玉を彼らにぶつけなければいけない。

果たして、彼らに見つからず、ミッションをクリアできるのか!?

やまと「通報部隊…厄介ね…。見つかったら逃げるのは無理に等しいわね…。」

スタッフ「ではどうするんですか?」

やまと「隠れながら移動していくしかないわ…。または近い人に託すか…。」

ハヤテ「市役所は…ここです!」

ナギ「通報部隊が離れて行く前に何としても入手するぞ!」

つかさ「え〜と…此処から先にある所に隠れておこつかなあ…？」

エリアを移動するつかさ。その前方から…。

通報部隊「…。」

通報部隊が接近…。

つかさ「でもエリアに通報部隊いるし、どうしようか…!!」

通報部隊「!!」

通報部隊に、見つかった…。

つかさ「ひゃあああ!!!!」

通報部隊「A-3にて柵つかさ発見。A-3にて柵つかさ発見。」

ハンター「…。」

近くにいた2体のハンターが確保に向かう…。

つかさ「不味いよ不味いよ!見つかった!」

一目散に逃げるつかさ。しかし、前と後ろからハンターが接近…。

つかさ「あつ！ハンター来てる！…ってこつちからも！？」

2体のハンターに挟まれたつかさ。

絶対絶命…。

つかさ「きゃあああ！…！！！」

ポン

柊つかさ 確保 残り 11人

つかさ「見つかったいたもんね…。移動しなきゃよかった…。」

後悔先に立たず、だ…。

律「『通報部隊の通報により柊つかさ確保。残り11人。』犠牲者
でちゃったか…。」

音無「マジかよ…早くミッションクリアしないと全滅あり得るんじ
ゃないか？」

ハヤテ「えーと…これじゃないですか？」

ナギ「そうだ！これだ！」

ガノンドロフ「これをやつらにぶつけねばいいんだな…。」

綾崎ハヤテ 三千院ナギ ガノンドロフ 煙麻痺玉獲得

ハヤテ「早く行きませんか！」

ナギ「そ、そうだな…。」

公園内をうろつく音無。

音無「どうしよっか…。此处からは遠いし…！」

音無が何者かに気付いた。発見したのは…。

通報部隊「…。」

通報部隊だ。

近づいてくる通報部隊を発見し、遊具の影に隠れる。

音無「…。」

通報部隊「…。」

無事、通り過ぎて行ったようだ…。

音無「危な…！今、そこ通り過ぎて行った…！…危な…。」

ハヤテ「…あ！いましたよ…。」

通報部隊を発見したハヤテ。

ナギ「でもどうするのだ？この距離じゃこれを当ててもハンターに位置情報を知らされて捕まるぞ？」

ガノンドロフ「確かにな…。あいつらがこちらに気付かずこっちによって来るのを待つしか…。」

ナギ「でもそれだと時間がかかるし、何よりハンターに気付かれる可能性がある。」

ハヤテ「一体どうしましょう。」

ビュオオオオ…。

ハヤテ「くっ…！」

ガノンドロフ「この風…うざいな。」

ナギ「さっきから風が強いな…。」

ハヤテ「風…煙…そうだ！」

ナギ「何かいい方法でも思いついたのか？」

ハヤテ「ちょっと見ていてください！今からやりますから…。」

ガノンドロフ「待て、やつらとはかなり距離がある。普通に投げても届かなかったらどうするんだ？」

ハヤテ「だから見ていて下さいってば…。」

ナギ・ガノンドロフ「？」

ハヤテ「それっ！」

ハヤテは煙麻痺玉を投げた。もちろん距離のためか通報部隊には届かなかった。

ガノンドロフ「おい、届いてないぞ…。」

ハヤテ「いえ、これでいいんです。」

ナギ「一体どうゆう…！」

投げた煙麻痺玉から黄色っぽい煙が出てそれが風に乗り、通報部隊に向かって飛ばされていった。通報部隊は体がしびれて動かなくなった。

ナギ「おい！玉から煙が出て来たぞ！」

ハヤテ「これは煙麻痺玉です。煙で動きを封じるんです。」

ガノンドロフ「なるほどな…煙だから玉が届かなくても煙さえ届け

ば動きを封じられるってわけか…。」

ハヤテ「そうゆうことです。これなら届かなくても通報部隊には届きます。」

ナギ「すごいぞ！ハヤテ！」

ガノンドロフ「いや、全部がこうなるわけじゃないと思うんだがな俺は。」

ナギ「？一体どうゆうことだ？」

ガノンドロフ「風向きだ。風向きが変われば届かないこともある。今回は偶然だ。」

ハヤテ「計算済みですよ…この風向きを読んで彼らに届く位置に投げてますから…。」

ガノンドロフ「何！？そんなのか!？」

ハヤテ「はい。」

ガノンドロフ「…。」

ナギ「まあ、とりあえず…この調子でやるぞ！」

ハヤテ「はい！お嬢さま！ガノンドロフさんも行きますよ！」

ガノンドロフ「あ、ああ…。」

なの「前に進みづらいですね〜」。

エリア移動中のなの。

なの「うう〜…やっぱり街中だとネジが気になってしまいました〜…」。

「

ロボット女子高生のなの。背中ネジが気になっている。

なの「早くいいところ…ないですかね…」。

文乃「…ここ？市役所？じゃあ早くミッションに行きましょう！」

律「よし！やっと着いたぞ〜！」

二人が市役所にたどり着いた。

文乃「これ…ね。」

律「よし！手に入れたぞ！」

芹沢文乃 田井中律 煙麻痺玉獲得

文乃「絶対にやっつけてやるわ！」

律「クリアするぞー！」

ミッションクリアに向かう！

飾利「…あっ！通報部隊！隠れなきゃ…。」

通報部隊を見つけ、身を隠す初春。

飾利「早く行ってください…。」

通報部隊「…。」

見つからなかったようだ…。

飾利「よかったです…。」

しかし、背後からハンター…。

飾利「見つからなかった…ってハンター！」

ハンターに見つかった！

飾利「まだ大丈夫！距離があるから…。」

結構な距離があったため…。

ハンター「…？」

ハンターをまいた…。

飾利「なんとか行けた…。」

しかし…。

通報部隊「！」

その姿を通報部隊にみられた！

通報部隊「C-5にて初春飾利発見。C-5にて初春飾利発見。」

初春の位置情報がハンターに伝えられる…。

飾利「えーと…今は此处…。」

しかし、初春は通報されていることに気付いていない！

果たして、初春の運命は！？

MISSION?2 (後書き)

僕が書いている別の小説のオリキャラ。

逃走中に出したらどうなるだろう？

うーん…分からん…。

MISSION?3 (前書き)

通報部隊に見つけた初春飾利。

徐々に迫るハンター…。

一体どうなってしまっのか!?

MISSION? 3

ミッション？が発動し、エリアに通報部隊が現れた。

その通報部隊に発見された初春飾利。

果たして、一体どうなってしまうのか！？

通報部隊「C-5にて初春飾利発見。C-5にて初春飾利発見。」

通報部隊に見つかってしまった初春飾利。

飾利「えーと…今は此処…。」

しかし、見つけたことに初春は気付いていない！

ハンター「…。」

ハンターが初春に迫る…。

飾利「…！ハンターいる…。」

ハンターに気付いた飾利。その場を離れる。

ハンター「…。」

辺りを搜索するハンター…。

飾利「危ない危ない…見つかるどころだった…。」

ハンターには見つかっていないが…。

通報部隊「初春飾利、C-5からC-4に移動中。」

通報部隊には見つかっている…。

飾利「…え！？通報部隊！？やばい…！」

通報部隊に気付いた初春。

ハンター「…！」

しかし、時すでに遅し…。

飾利「は、ハンター！やばいやばい…！」

ハンターに見つかった…。

飾利「キャアアアア…！！！」

ポン

初春飾利 確保 残り 10人

飾利「悔しいよ…。」

やまと「『初春飾利確保。残り10人。』」

音無「誰が行っているのか？もしだれも行っていなかったら不味いぞ…。」

律「…！通報部隊発見！」

通報部隊を発見した田井中。

律「これでも食らえ！」

そして、煙麻痺玉を通報部隊に投げつける。

通報部隊「！？」

通報部隊はしびれて動けなくなってしまった。

通報部隊 停止 残り 1組

律「よっしゃー！動きを止めたぜ！」

残る通報部隊は、1組…。

なの「！あの人たちってまさか通報部隊!？」

東雲が通報部隊を見つけた。しかし東雲は煙麻痺玉を持っていない。

なの「どうしましょう…：そうだ！誰かに電話して来てもらいましょう！」

ピリリ…ピリリ…。

音無『東雲か…なんだ？』

なの「あの、美術館付近で通報部隊を見つけたんですけど…。」

音無『悪いな…：俺は煙麻痺玉を持っていないんだ…。』

なの「そ、そうなんですか…。」

音無『他を当たってくれないか？それじゃ。』

ピッ！

なの「えーとえーと…：あれ？通報部隊いなくなっている…。」

通報部隊を見失った…。

なの「でもまだこの近くにいるはず…：探してみましよう…。」

やまと「此処なのね…市役所…。」

市役所に着いた永森。

やまと「早く手に入れて通報部隊を止めなきゃね…。」

ハヤテ「一体どこにいるんでしょうか…あれ？ガノンドロフさんは？」

ナギ「ああ…それなら私にあいつが持っていた煙麻痺玉を私に渡してどこかに行ったぞ？」

ハヤテ「ええ!？」

ナギ「人数が少ない方が見つかりにくくていいんじゃないか?と言つてたぞ。」

ハヤテ「それもそうですね…では探しに行きましょう!」

ナギ「お、おう!ハヤテ!」

ガノンドロフ「あいつらに頑張ってもらつたか…。俺は休むとするか…。」

ガノンドロフはミッションを放棄した…。

文乃「絶対に止めてやるわよ…。」

通報部隊を探す文乃。

文乃「あれは…。」

見つけたのは…。

ハンター「!!」

ハンターだ…。

文乃「!不味いわね…。」

ハンターを見つけて逃げる文乃。

文乃「此处で捕まるわけには行かないのよ!!」

持ち前の身体能力で逃げる文乃。

ハンター「…?」

ハンターをまいてしまった。

文乃「やったわ…。」

やまと「これね…。」

永森やまと 煙麻痺玉獲得

やまと「早めにクリアしておきましょう。」

文乃「！あれって…。」

文乃が見つけたのは…。

通報部隊「…。」

通報部隊…。

文乃「気付かれないように…。」

背をかめながら近づき…。

文乃「せーの…。」

通報部隊「!?!」

通報部隊の動きを止めた…。

通報部隊停止 MISSION CLEAR

文乃「やった…!」

ピリリ…ピリリ…。

やまと「あ、もう全員止められちゃったわね…。」

ナギ「これを使うまでもなかったか…。」

ガノンドロフ「ミッションクリアか…。」

現在残っているのは10人。

そして、逃走者が逃げる天ノ海市に近づく影…。

逃走者に危機が迫る…。

ゲーム終了まで35分29秒…。

MISSION?3 (後書き)

もうすぐ30話。

よし、頑張るぞ！

MISSION? 1 (前書き)

もうすぐ体育祭だ〜！

ああ…組体操…練習疲れるな…。背中痛え…。

アイク「てかもうすぐだろ。頑張れよ。」

はい、頑張ります！

アイク「俺、その日用事があつて見られねえから。」

酷っ！

こなた「頑張るんだよ、組体操ではみんなを支える土台として。」

確かに体大きいから土台だけど！今言わなくてもいいじゃん！

ガノンドロフ「うるさいぞ！」

アイク・こなた・作者「すいません。」

MISSION? 1

ミッション? が終了し、残る逃走者は10人となった。

ゲーム終了まであと34分。

果たして、逃げ切れるのか!?

音無「まだ30分もあるのか…時間過ぎるの遅いな…。」

ハヤテ「あと30分ですよお嬢様!ここまで来たら頑張らしましょう!」

ナギ「おお!もちろんそのつもりだ!」

春香「捕まってしまったみんなのためにも此処は頑張らないと…。」

なの「相生さんや天原さんのためにも頑張ります!」

憂「なんだか賞金がすごいことになっちゃってるけど…自首する気はないよ…。」

文乃「此処まで来たんだから！1stステージの代表者として頑張るわよ！」

律「こんな所で負けていられないぞ！」

やまと「正直言ってここまで来れるとは思っていなかったわ…此処まで来たらもちろん逃走成功目指すわよ…。」

ガノンドロフ「まだ30分以上もあるんだろ？まだ油断していらねえよ。」

牢獄

スネーク「まだ10人も逃げているのか…。」

近藤「皆頑張っているな。」

ヒナギク「もうすぐ30分切るわよ…。」

当麻「5…4…3…2…1…残り時間30分切った！」

美琴「でもまだ油断してられないわよね…。」

明久「あ…賞金獲得したかったな…。」

アイク「負けたやつが言えることではないけどな…。」

明久「本当にね…はあ…。」

山崎「まだミッション残っているんですかね？あと30分も残っているんですから…。」

こなた「まだ残ってると思うよ。多分1個2個…。」

やよい「多分出るとしたら…ものすごく難しいミッションだと思います…！」

雄二「残り10人だから…クリアできるかどうかは逃走成功できるかの運命を分けるな。」

小萌「どちらにしても誰かは逃げ切ってほしいですよ…。」

小萌意外「そうだなあ…。」

音無「普通よりも長く感じる…。」

音無の背後からハンターが接近…。

音無「じか…うおっ!?マジかよ!?!」

ハンターに気付いた!

音無「不味い!!!」

複雑な地形を利用し…。

ハンター「…?」

ハンターをまいてしまった…。

音無「ぜえ…ぜえ…そうだ…まだゲームは終わってねえな…。」

ブロロロロ…。

逃走者たちに迫る最大の危機…。

ハンター「…。」

それは着実に近づいていた…。

ピリリ！ピリリ！

やまと「まさかとは思っけどね…来たわ…」『ミッション?!』

ハヤテ「『現在君たちがいるエリアに5台のハンタートラックが近付いてきている。』ハンタートラック？」

ナギ「何だそれは？」

律「『ハンタートラックの中には1台に8体ずつ乗っており、残り10分になると君たちがいるエリアに到着し、ハンターが放出される。』ってことは全部で40体ってことか!？」

ガノンドロフ「『ハンタートラックを止めるには牢獄前にある暗証番号認証装置に5つの暗証番号を入力しなければならない。』」

春香「『なお、暗証番号はそれぞれ別の場所があり、自力で確認するしかない。』」

文乃「さすが最終ミッション…難しさがだてじゃないわね…。」

ミッション？ ハンター大量放出を阻止せよ！

現在、1台に8体ずつ乗せたハンタートラックが5台、逃走者のい

るエリアに向かってきている。
残り10分になると逃走者がいるエリアに侵入し、ハンターを放出する。

トラックを止めるには牢獄前にある暗証番号入力装置に5つの暗証番号を入力しなければならない。

なお、5つの暗証番号がある場所は以下のとおりである。

- 1つ目 天ノ海美術館入り口にあるボード
- 2つ目 エリア内にある7つの電光掲示板のうちのひとつ
- 3つ目 天ノ海映画館内にあるモニター
- 4つ目 エリア内を走行する軽トラックの側面
- 5つ目 天ノ海タワーの側面（エリア内の天ノ海マンションに上って最上階にある双眼鏡で確認する）

文乃「と、言うことは全部入力しないとハンターの放出は止められない……。」

音無「映画館…美術館…マンション…どれも距離があるな……。」

やまと「電光掲示板ってどれが正解かわからないの？」

なの「電光掲示板と軽トラックは自力で探すしかないんですね……。」

」

ハヤテ「此処からだ…映画館が近いですね…。」

ナギ「電光掲示板も近くにあるし、確認しに行くぞハヤテ！」

ハヤテ「はい、お嬢様！」

音無「もちろんやるさ！」

文乃「これやらない人っているの？」

なの「行きます！」

律「誰かのためになりたい…から行くさ！」

春香「お力になれるとは思ってから行きます！」

やまと「何もやらないよりは何かやった方がいいでしょ？」

憂「行く！」

以上の9人がミッションに向かう。

ガノンドロフ「はん！誰かがやるだろ…それにハンターが増えた方

が面白いしな。」

ガノンドロフはミッションには向かわないらしい…。

ゲーム終了まであと28分。

ミッションをクリアできるのか!?

MISSION?1 (後書き)

池袋編のミッションが元です。

康太「元、じゃなくてそのままのような気がする。」

雄二「そのままのような気がするじゃない、そのままだ。」

こなた「そっだよねぇ。」

…。

MISSION? 2 (前書き)

アイク「はい、今回で30話行きましたー。」

こなた「おお、こんな小説でも此処まで続くんだね。」

ナギ「18話辺りで止まると思っていたのに…。」

ヒナギク「そうよね。」

明久「でもここまで来たんだし、もうちょっとだね。」

つかさ「はう〜。」

ルイージ「話がみんな長いよ…では逃走中です。」

インデックス「文句は言わないの。緑。」

ルイージ「酷っ!?!」

MISSION? 2

残り時間28分。逃走者にミッションが発動された。

残り10分になるとエリア内にハンターが放出されてしまう。

果たして、逃走者はミッションをクリアできるのか!?

音無「近い所に電光掲示板があるぞ!よしっ、まずは此処に向かうか!」

律「映画館に向かう!」

春香「えっと…軽トラックの番号を確認しよう!」

憂「美術館に向かいます!」

やまと「此処からだ…マンションが近くにあるわね…。早く向か…!」

やまとは近くの道路を走っていたトラックに目を付けた。

やまと「あれって…ミッションに書いていたトラックじゃないかしら？ だったら側面に番号が書いてあるはず。」

側面が見える所に回り込むやまと。

やまと「…！』40185『…！」

番号を確認できたやまと。

やまと「…どうしようかしら…装置に向かうしかないわね。」

暗証番号認証装置に向かう！

音無「此処の電光掲示板は…ハズレか…。よしっ、次だ！」

ハヤテ「これですね、電光掲示板。」

ナギ「でも番号書いていないぞ？」

ハヤテ「と、言うことは…ハズレですね。」

ナギ「ハズレか…。」

ハヤテ「映画館で番号を確認しに行きましょう！」

ナギ「そうだな！」

牢獄

アイク「？モニターに何か映っているぞ？」

雄二「黒いトラックが5台…まさかハンタートラックか!？」

美琴「不気味ね…。」

島田「あ！距離が書いてあるよ！」

明久「到着まで約15分だつて…。」

つかさ「残り10分過ぎたらハンターがたくさん出てくるんだよね？」

マリオ「さすがに40体は無理だろうな…。」

ふゆき「8体でもきついとは思いますが…。」

マリア「みなさんはクリアできるんでしょうか…?？」

スネーク「できるだろう。力を合わせれば…。」

ハヤテ「映画館に来たのはいいですけど…一体どこのモニターなん
でしょうか…？」

ナギ「こっちは…違うか…。」

ハヤテ「…！此処です！お嬢様！」

ナギ「見つけたのか！？一体なんて映されてあるんだ！？？」

ハヤテ「ええと…『98324』です！」

ナギ「そうか…じゃあ向かうぞ！」

ハヤテ「はい！」

やまと「あそこね…！」

アイク「誰か装置に向かってるぞ…！」

ゆたか「あれって…永森さんだ！」

やまと「此処ね…40185…認証！」

ピーー！

ハンタートラック 1台離脱 残り4台

やまと「1台止まったわ！」

千早「止めたらしいわよ。」

雄二「おお！」

やまと「次はどこの番号を…！あと13分…見に行ってから此処に来るまでの間に過ぎちゃうかもしれないわね…。そうだわ！此処で待っていてみんなから電話してもらえば…。」

やまとは装置前で待ち、他の逃走者が番号を確認してもらい、それを電話で教えてもらい、入力するという事を考えついたのだ。

やまと「此処は…メールで一斉送信…。」

文乃「美術館…近いわね…。」

美術館前まで来た文乃。

ハンター「！」

文乃「…！ハンター！」

しかし、近くにいたハンターに見つかってしまった。

文乃「まだ大丈夫よね…この距離は…。」

大分距離があつたため…。

ハンター「…。」

なんとかハンターをまいた。

文乃「美術館から離れてしまったわ…。」

しかし、美術館から離れてしまった。

文乃「…？メール…やまとさんからだわ…。」

律「『現在装置前にいます。番号がわかった人は電話してください。』」

春香「連携プレーってことですか…？」

やまと「…これでいいかしら。」

ピリリ！ピリリ！

やまと「ハヤテ君からだわ。」

ハヤテ『永森さん！映画館の番号わかりました！』

やまと「ほんと！？」

ハヤテ『98324です！』

やまと「ありがとうね！ハヤテ君！」

ハヤテ『いえいえ。』

やまと「98324…認証！」

ピー！

ハンタートラック 2台離脱 残り3台

やまと「2台離脱できたわ！」

牢獄「おお〜！」

憂「美術館…もうすぐだ！」

美術館に向かっていている憂。しかし、近くにハンター…。

ハンター「！」

憂「…！不味い！ハンターだ！」

至近距離で見つかった憂…。

憂「…！」

ポン

平沢憂 確保 残り 9人

憂「あともうちよつとだったのに…ミッションに貢献できたらよかった…。」

律「憂ちゃん…！」

春香「憂さんも捕まってしまいました…。」

現在ハンタートラック2台が離脱、残るは3台。

果たして、クリアできるのか!?

MISSION? 2 (後書き)

スネーク「ひとつ聞くが次回作は考えてあるのか？」

あーそれはまだですねー。

スネーク「そうか…執筆中小説に何かひとつストックがあるがそれは何だ？」

うおっ、鋭いところ付くね…。

スネーク「あれは何だ…？」

…。

次回をお楽しみにー！

スネーク「おい！逃げるな！」

MISSION? 3 (前書き)

こなた「さっき作者が気付いたらしいけど此処に小説を投稿して一カ月が過ぎたんだって。」

アイク「おーあの馬鹿(作者)でも頑張ればここまで来れるものなんだな。」

ガノンドロフ「全くだな。」

ルイージ「気になったんだけど…他の所では敬語なのに最近此処で喋る時敬語じゃないのは何故?」

アイク「作者は元々タメ口だ。初めての人に対しては大体敬語が多い。だからタメ口での喋り方が作者の素だ。あと少しSっぽい所があると言う噂を聞いたことがある。本当かどうかは知らんが。」

こなた「ふーん。だからたまに敬語の中にタメ口が混ざるんだね。」

当麻「ってか関係の無い話しすぎだろ!!もう逃走中始まります!!」

僕「サドじゃないから!!」

アイク「あ、そーなの。」

当麻「だから関係無い話するな!!」

MISSION? 3

現在、ハンタートラックは2台が離脱。

残るは3台。

果たして、間に合うのか!?

文乃「さっきはハンターに見つかったから美術館に向かえなかったけど今は大丈夫そうね。」

スタッフ「もう一回向かいますか?」

文乃「もちろん、もう一回美術館に向かうわよ!」

なの「えっと…どこに行きましょう?」

現在、どこに向かうか悩んでいる東雲。

なの「うーん…!ハンターいます…。」

遠くにハンターを見つけその場を離れる東雲。

なの「はあ…はあ…ってここ映画館じゃないですか!？」

偶然、映画館に着いた東雲。

なの「ちよつと番号確認していきます!!」

しかし、此処の暗証番号はすでに確認されている。

音無「此処の電光掲示板は…違うか…。くそつ、一体どこに表示されているんだ…？」

春香「此処ですね…トラックが走るルートは…。」

春香はトラックが走る道路にやってきた。実は暗証番号が書かれているトラックは決まったルートを往復しており、それ以外のルートは走らないことになっている。

春香「…!多分あのトラックです…。」

春香が暗証番号が書かれたトラックを見つけた。

春香「えつと…『40185』ですね…。電話しておし…!ハンター来たあ!!」

永森に電話をしようとしたが、ハンターに見つかってしまった。

春香「キヤアアア!!」

ポン

天海春香 確保 残り 8人

春香「折角番号確認できたのに…。」

トラックの暗証番号を確認できた春香。しかし、ハンターに捕まっていた。

そして、春香の近くにもう一つの暗証番号があった…。

音無「『天海春香確保。残り8人。』不味いな…どんどん捕まってる…。」

律「早く行かないと!」

なの「これですね暗証番号…『98324』!」

映画館の暗証番号が確認できた東雲。

なの「早く電話して伝えない!」ピリリ!ピリリ!」な、何ですか…

!？」

音無「途中経過…現在確認できていない暗証番号は美術館、電光掲
示板、タワーの三つ！」

ハヤテ「次は…タワーに向かいます！」

ナギ「と、言うことはマンションだな！」

ハヤテ「行きますよお嬢様！」

ナギ「おう！」

なの「え…と言うことは此処のは意味無いつてことですか？折角確
認したのに…。」

文乃「美術館…ボードってこれね！」

美術館に着いた芹沢。

文乃「えっと…『33821』！これね！」

ピリリ！ピリリ！

やまと『芹沢さん、どうしたんですか？』

文乃「暗証番号確認できたわ！美術館の…！」

やまと『本当ですか！？』

文乃「33821よ！」

やまと『わかりました。ありがとうございます！』

文乃「ええ、頑張つてね！」

ピッ！

やまと「3…3…8…2…1…認証！」

ピー！

ハンタートラック 3台離脱 残り2台

やまと「3台目もクリアしました！」

牢獄「おおー！」

アイク「すげー…。」

文乃「クリアできたみたいね…。」

スタッフ「ミッションやらないんですか？」

ガノンドロフ「やらないと言っただろう。」

ミッションに参加する気のないガノン…。

ガノンドロフ「行っている奴もいるから大丈夫だろう。」

ハヤテ「此処からどう行ったらいいのでしょうか…。」

ナギ「そうだな…！ハンターいたぞ…。」

ナギがハンターを見つけた。

ナギ「いったん隠れるぞ！」

ハヤテ「はい！」

物陰に身を隠す二人。

ナギ「まだいるな…。」

ハヤテ「この辺りを探しているようですね…。」

ハンター「…。」

しかし、背後から別のハンター…。

ハヤテ「…！お嬢様、背後からハンターが…。」

ハンター「！」

見つかってしまった…。

ナギ「不味い…。」

ハヤテ「いったん二手に分かれましょう！」

ナギ「お、おう！」

二手に分かれるハヤテとナギ。ハンターが視界にとらえたのは…。

ハヤテ「僕の方に来ましたか…。」

綾崎だ…。

ハヤテ「不味いですね…先ほどのハンターに見つかったりでもしたら…。」

ハンター「！」

近くにいたハンターに見つかった…。

ハヤテ「…！挟み撃ちですか…。」

2体のハンターに挟み撃ちにされたハヤテ。

一体どうやってこの場を逃げるのか…。

ハヤテ「（こうなったら…フェイントを仕掛けて上手くやり過ぎす
しかありませんね…。）はあ！」

ハンター「!?!？」

フェイントを仕掛け、前のハンターをかわしたハヤテ。しかし、背
後のハンターが追いかける…。

ハヤテ「此処までですか…。」

ポン

綾崎ハヤテ 確保 残り 7人

ハヤテ「お嬢様…すみません…僕は此処までです…。」

ナギ「はあ…はあ…うまくやり過ぎさせたようだ…しかし…ハヤテ
のやつは大丈夫なのか…？」

音無「確保情報…綾崎ハヤテ確保!？」

やまと「あんなに足の速い綾崎君が…!？」

ナギ「ハヤテが…捕まった…逃げ切るぞ…絶対に…！」

律「…?あれ、此処マンションじゃないのか？」

天ノ海マンションの近くにやってきた田井中。このマンションの最上階にある双眼鏡から天ノ海タワーを確認すれば暗証番号がわかる。

律「此処に行こう…！」

最上階を目指す!

音無「あと…6分…不味いな…。」

やまと「ハンター8体はきつい…。」

ミッション終了まであと6分!

果たして間に合うのか!?

M I S S I O N ? 3 (後書き)

次回、ミッション?終了…。

MISSION? 4 (前書き)

アイク「今回でミッション終了だ。」

文乃「クリアできるか見ものね。」

山崎「ってか君まだ逃げてるんでしょ？頑張りなよ。」

文乃「そうね…がんばるわ!」

アイク「では逃走中です。…最近作者此処に出ないな。」

ナギ「溜まったアニメを見てるらしいぞ。」

アイク「マジか…。」

マジです。

MISSION? 4

ミッション終了まであと6分…。

ミッションをクリアしないと最大16体のハンターが放出される。

果たして、逃走者たちはミッションをクリアできるのか!?

ナギ「あと6分だ…不味いぞ…。」

音無「ハンター放出されるな…。」

文乃「あと6分でしょ…あれ、タワーを確認しに行ってる人いないんじゃないかしら? ちょっとタワーの暗証番号に向かうわ!」

そのタワーの暗証番号には…。

律「マンションは此処だな…。」

田井中が向かっている!

ナギ「電光掲示板…遠いな…これは任せるか…。」

三千院ナギ、ミッションをあきらめた…。

音無「此処も違う…今確か5個ぐらい確認したから…。」

ずっと電光掲示板の番号を確認している音無。

音無「でも最後の二つ、距離的に両方見るの無理だな…。どっちだ!？」

この決断が運命を左右する…。

音無「こっちは確かさっき捕まった人がいたから…このいない方に行こう!」

果たして、暗証番号はあるのか!?

牢獄

春香「捕まっちゃいました…。」

インデックス「残念だったね…。」

春香「そう言えば私暗証番号確認したんだけどな…。トラックの…。」

当麻「でもさっき入力されてたからな…意味無いんじゃないか？」

春香「あ、あともう一つ確認したよ。」

インデックス「何の？」

春香「電光掲示板。」

当麻「それまだ入力されてない奴だ！」

春香「うん。でも忘れちゃった…。」

インデックス「勿体ない…。」

律「エレベーター…此処か…。」

エレベーターに乗り込む田井中。

律「早く最上階に…。」

やまと「ちょっと田井中さんに電話かけてみるわ。何してるのかしら…。」

ピリリリ…ピリリリ…。

やまと「…。」

ピリリリ…おかけになった…。

やまと「あれ？つながらない…。」

田井中は現在エレベーターの中にいる。

律「早く着いてくれ…。」

圏外だ。

律「…。」

チーン！

律「よしっ、着いた！」

田井中は屋上への階段を駆け上がる。

律「えつと…：タワーの番号を確認するにはどうすればいいんだ？…
これを使え？」

田井中は近くにあった双眼鏡でタワーを覗き込む。

律「えつと…：！『45332』！あれだな…：！」

暗証番号を確認できた律。

律「よし…あれ？やまとちゃんから非通知の電話が来てる…」

ピリリ！ピリリ！

やまと『あっ、田井中さん？電話がからなかったけどどこにいたの？』

律「今はマンションの最上階にいるぞ！あ、あと暗証番号確認できた！」

やまと『暗証番号！？何番！？』

律「えつと…45332だ！」

やまと『ありがとう！』

ピッ！

律「うお！…切れた…」

やまと「4…5…3…3…2…認証！」

ピー！

ハンタートラック 4台離脱 残り1台

やまと「あと…1台…。」

律「マンションの此処…結構安全だと思うんだけどな。此処にいてもいい？」

スタッフ「ハンター来たら逃げ道ないですよ？」

もしマンションの中にハンターが来れば、逃げ道は、無い。

律「やっぱりそうだよな。」

ミッション終了まであと3分半！

ナギ「あと3分半か…。」

音無「俺のほかには誰か見てるのか…!？」

なの「電光掲示板を確認しに行きます！」

電光掲示板に向かう東雲。

その近くにハンター…。

なの「此処には無いです…ハンターです!」

ハンターを見つけ、その場を離れる東雲。

なの「こつちに行きます!」

脇道に逃げ込み…。

ハンター「…?」

ハンターをうまく撒いたようだ。

なの「危なかったです…。」

しかし、まだ近くにハンターはいる。油断はできない…。

なの「こつちに…。」

ハンター「…!」

なの「えええ!?!」

先ほどのハンターと出くわした東雲。

なの「ひゃあああ!?!?!」

ポン

東雲なの 確保 残り 6人

なの「何でこうなるんですか…はかせ…。」

アイク「東雲捕まった!」

祐子「なのちゃんが!？」

文乃「『東雲なの確保。残り6人。』不味いわ…。」

やまと「えつと…残っているのは…芹沢さん…田井中さん…三千院さん…ガノンドロフさん…音無さんと私の6人…。」

ナギ「不味い…。時間が…。」

ミッション終了まであと、1分!

音無「不味い…ハンターが…ってこんな時にかよ!？」

ハンターに見つかった音無。

音無「うおおお!…」

持ち前の身体能力でハンターを撒いた。

音無「危ない…。」

ハンター放出まであと、30秒！

音無「此処は…んなっ！？表示されてないだど！？？」

此処に暗証番号は無い。

音無「うわぁ…もう無理だ…。」

やまと「もう駄目ね…離れましょう…。」

ハンター放出まであと10秒！

アイク「トラック来た！」

インデックス「怖いよ〜とうま〜…。」

当麻「不気味だ…。」

ルイージ「出ちゃっよ〜…。」

ハンター放出まであと5…。

4…。

3…。

2…。

1…。

ギィ…。

ダダダダ…!!

ミッション失敗 ハンター8体放出

ふゆき「走って行きましたね…。」

近藤「確か5体と8体で13体だろ？逃げれるのか？」

ゆり「さあ？諦めなければいけるんじゃない？」

美琴「黒い人がいっぱい…。」

文乃「メール…ミッション失敗!？」

ガノンドロフ「ハンター8体が放出され合計13体になっただど!？」

音無「おいおい…どうやって逃げればいいんだよ…。」

律「マジか…。」

律に迫るハンター…。

律「うーん…！ハンター来た…。」

ハンター「！」

ハンターも田井中に気付いた。

律「不味い不味い…見つかった…。」

逃げる先に…別のハンター…。

律「来てる来てる…って前からも！？」

ハンター2体に挟まれた…。

律「あちゃ〜…これはもうお手上げだな…。」

ポン

田井中律 確保 残り 5人

律「ああ挟まれたら無理だろな〜…13体だっけ？どうやって逃げたらいいんだよ…。」

ナギ「『田井中律確保。残り5人。』」

音無「うわぁ…やっぱりか…。」

残るは芹沢文乃、永森やまと、三千院ナギ、音無結弦、ガノンドロフの5人。

それに対し、ハンターは倍以上の13体。

ゲーム終了まであと9分半。

果たして、逃げ切れるのか!?

MISSION? 4 (後書き)

ミッション?が終了し、ハンターは13体となった。

果たして、逃走者たちは一体どうするのか!?

残り9分(前書き)

やっと更新できる時間ができた…。

あと関係無いですけど…。

銀魂のOP、EDがものすごくいい曲だー！

こなた「本当に関係無い。」

ジレンマ最高！アナグラ最高！

残り9分

ミッション？が終了した。

しかし、ミッションをクリアできなかったため8体のハンターが放出され、合計13体となった。

それに対し、逃走者は5人。

果たして、この不利な状況を逃走者たちはどう対処するのか！？

現在、ゲーム終了まで9分…。

ナギ「15体だったか？…あ、13体だったな…。」

現在のハンターの数はいくつ？

ナギ「どうやって逃げればいいんだ…？」

音無「うおっ…ハンターいた…うわ、こっちもいる…。」

文乃「さつきからハンターを見る…。」

やまと「ハンターだらけね…。」

ガノンドロフ「俺がハンターに負けるなど絶対にあり得ん！」

気が強いガノンドロフ。

ガノンドロフ「何としてでも逃げ切るぞ俺は！」

牢獄

律「捕まった…。」

こなた「まあその話はこの中で聞くから…。」

ガチャン

律「13体きつつ！」

雄二「そりゃあんだけいたら捕まるな…。」

ルイージ「でもよくこの中で残っているね。」

マリオ「今誰が残っているんだっけ？」

つかさ「やまとちゃんと…。」

ゆり「音無君…。」

ハヤテ「お嬢様も残っています！」

巧「文乃も残っている…。」

アイク「ガノンのやつが残っている…。」

近藤「よく残っているな…。」

山崎「ほんとですね局長。全滅とかしないでほしいですね。」

黒井「まあそりゃあなあ…。」

音無「やべえ…頭の中真っ白だ…策がねえ…。」

これまでに何回もハンターを振り切っている音無結弦！

ナギ「ハヤテの分も頑張るって決めているんだ…。」

ミッションに貢献した三千院ナギ！

文乃「此処まで来たんだもの…逃げ切る以外に考えてることは無いわ…。」

唯一の1stステージの生き残りの芹沢文乃！

やまと「13体に対する勝算は…ほぼ0ね…。」

最後のミッションに大きく貢献した永森やまと！

ガノンドロフ「見つかったらどうするか？んなもん振り切れればいいだろ。」

隠れながらここまで生き延びて来たガノンドロフ！

ガノンドロフ「自首も考えてはいるが…ハンターのやつがいて動けねえんだよな。」

その、ガノンドロフに近づくハンター…。

ガノンドロフ「…！くそっ！来やがった！」

ハンターに見つかってしまった…。

ガノンドロフ「こんな所で捕まってたまるか！」

しかし、逃げる先に別のハンター…。

ガノンドロフ「何！？前からだと！？…くっそおおお！！！！！」

ポン

ガノンドロフ 確保 残り 4人

ガノンドロフ「この俺が、このハンターとやらのサイボーグに負けるとは…。」

大魔王、此処に散る…。

アイク「確保情報来た！」

こなた「えっ？誰誰？」

アイク「えーと…ガノンドロフ確保！」

確保者「あ…。」

マリオ「あいつにしては頑張った方だな。」

アイク「足遅いからな…。」

ふゆき「残り4人ですか…。」

梓「すごいですね…。」

やまと「残り4人…。」

音無「終了まであと6分半…。」

ゲーム終了まであと6分30秒！

逃げ切るものは、現れるのか！？

残り9分(後書き)

多分もうちょっと続きます。

次回作どうしようか…絶対ドラマは無いとなあ…。

6分30秒（前書き）

ゲームも終了に近づいてきている…。

残る逃走者は4人！

果たして、結果は！？

それと今夜の逃走中！とっても楽しみ！！！！！！

6分30秒

ゲーム終了まで残り6分30秒…。

ハンターの数は…。

ハンター「…。」

逃走者4人に対し…。

ハンター「…。」

13体！

この圧倒的に不利な状況の中、逃走者たちは一体どうするのか！？

文乃「絶対に捕まりたくないわね…。此処まで残ったんだから…。」

音無「大丈夫だ自分…絶対いける…。」

やまと「…！ハンターいるわ…。」

ハンターを見つけた永森。

やまと「もう1体も接近してきた…。」

近くにいる2体のハンターが永森に急接近。

やまと「…。」

ハンター「…。」

ハンター「…！」

やまと「不味い…。」

見つけた…。

ハンター「…！」

さらに、もう1体のハンターにも見つかってしまった！

やまと「不味い…この距離じゃ…っ…！」

ポン

永森やまと 確保 残り 3人

やまと「やっぱり速いわねハンター…。」

音無「『天ノ公園付近にて永森やまと確保。残り3人。』うわあ…
優勝候補捕まったよ…。」

ナギ「ええと…今残っているのは私と芹沢ってやつと音無ってやつ
か…。」

文乃「残り3人…。」

アイク「残り時間3分切った!」

雄二「あともう少しだ!」

ゆたか「頑張れみんな!」

音無「…13体相手に此処まで残ってこれたな…。」

文乃「行けるわ…。」

ナギ「ハヤテ…。」

文乃「私だけしか残ってないのよね…1stステージを突破した人
って…。」

唯一、1stステージをクリアした逃走者の中で残っている芹沢。

文乃「だからみんなの分も背負っていかなきゃ…ゴールまで…。」

音無「…うおっ!！」

ハンターを見つけた音無。すぐさま身を隠す。

ハンター「…。」

音無「…。」

ハンター「…。」

どうやら見つからなかったようだ…。

音無「あつぶね〜。ビビった〜。」

文乃「残り2分〜もうすぐだわ〜。」

芹沢に、ハンターが接近〜。

文乃「…！ハンター…。」

文乃が、ハンターに見つけた！

文乃「…速い…。」

しかし、逃げる先に別のハンター…。

文乃「不味い！前から〜。」

挟まれた…。

文乃「キャアア〜！」

ポン

芹沢文乃 確保 残り 2人

文乃「はあ…此処で終わってしまったとはね…。」

1stステージの生き残りの芹沢文乃、ゲーム終了目前で散る…。

アイク「確保情報!!」

インデックス「え!?もう2分切っているんだよ!?!」

明久「捕まったの誰!?!」

アイク「捕まったのは…芹沢文乃!!」

確保者「うわあああああ!!!!!!!!!!」

当麻「あの足の速い奴が…!?!」

巧「文乃…。」

音無「2分切った2分切った!!」

ナギ「行ける…行けるぞ…!!」

残ったのは音無結弦と三千院ナギ…ゲーム終了まであと1分50秒…。

果たして、ハンター13体から逃げ切れるのか!?

6分30秒（後書き）

作者「最近3作目について考えていたら何故か4作目候補を考えてしまった。」

アイク「~~ええええええええええ~~。」

作者「ただ実際に4作目にするかは決まっています。まずは3作目ですからね。」

アイク「ガンバ。」

ゲーム終了！（前書き）

今回でゲームは終了…。

残るは三千院ナギと音無結弦の二人…。

それに対し、ハンターは13体…。

二人は無事、乗り切れるか！？

ゲーム終了！

ゲーム終了まで残り2分を切った！

現在エリアには13体のハンターが二人の逃走者を捜索している。

果たして、ハンターから逃げ、賞金を獲得できるのか！？

音無「今確か13体なんだろう？見つかったら終わりじゃねえかよ…。」

ナギ「なるべく此処で背をかがめて、見えないようにする。」

スタッフ「でもそんなことしたら汚れてしまいますよ？」

ナギ「ああ、確かに私は汚れるのは嫌いだ。でもみんなの思いを無駄にはしたくは無いだ！！」

アイク「1分30秒切った！」

つかさ「すごいすごい！！」

ハヤテ「お嬢様！頑張ってくださいーい！！」

ゆり「音無君すごいわ！」

ナギ「…来た…ハンター…。」

三千院にハンターが接近…。

ナギ「…。」

やり過ごせるか…。

ナギ「…。」

ハンター「…！」

ナギ「くそっ！！」

見つかってしまった…。

ナギ「不味い…。」

一目散に逃げる三千院。しかし…。

ハンター「…。」

逃げる先に3体のハンター…。

ナギ「はあ…はあ…ってうわぁ！？」

ハンター「…！」

見つかってしまった…。

ナギ「こつちにもいたのか…！」

ハンター「…！」

ハンター「…！」

そして、近くにいた2体のハンターも三千院に気付いた。

ナギ「うわ、うわあああ…！！！」

ポン

三千院ナギ 確保 残り 1人

ナギ「くっそー！此処で捕まってしまうとは…。」

アイク「三千院ナギ確保ー！」

確保者「うわあああああ……！！！」

残るは…。

音無「あれ？俺一人？」

音無結弦…。

ただ一人！

ゲーム終了まであと1分！

音無「来た来た来た…。」

アイク「残り、45秒！」

ゆり「音無君！絶対いけるわ！」

音無「…ハンターいた…！」

逃走成功目前で音無にハンターが接近…。

音無「…。」

ハンター「…。」

音無「…。」

ハンター「…。」

アイク「20秒！」

マリオ「みんな！カウントダウンしないか？」

確保者「賛成！！」

音無「…。」

ハンター「…！！」

音無「見つかったぞ！」

残り15秒でハンターに見つかった…。

確保者「13！12！11！10！」

5
!

6
!

7
!

8
!

9
!

音無結弦 逃走成功 賞金150万円獲得

音無「俺が…逃走成功…夢みたいだ…やったああ…!!」

アイク「『音無結弦逃走成功!賞金150万円獲得!』」

音無「やったぜ!」

アイク「すごいな!ハンター13体なんだろ!？」

音無「最後の方でハンターに見つかってさ、逃げてる途中で逃走成功したんだ。」

つかさ「すごい…。」

ゆり「音無君、何に使うの?」

音無「え?あ、決めてないな…。」

律「でも、取ったし、またあとで使い方考えればいいんじゃない?」

音無「でもな…はあ…。」

ゆり「はあ〜って何よ。」

アイク「お前、自由に使うなよ。」

ゆり「何よそれ!〜!」

ゆり以外の全員「ははははは!〜!」

ゆり「笑うな!〜!」

アイク「…じゃあ気を取り直して…。」

スタッフ「これで開けて下さい。」

音無「あ、はい…。」

カチャ…。

音無「うおお…すつげえ…。」

ゆり「普通のとどれだけ違うの音無君?」

音無「なんかこう…神々しい感じがする…。」

ゆり「何よそれ…。」

スタッフ「では、カメラに一言。」

音無「見事に俺、逃走成功したぞー!〜!」

ゲーム終了！（後書き）

無事にゲーム終了しました。

でも、この話はまだまだちょっと続きます。

続き(前書き)

今回も無事に終了しました。

でも、まだこの小説は続きます。

ちょっといろんなことを考えています。

続き

とある一室

? 「今回も無事に終わったようだな…。」

? 「よかったですね…。」

この男性は前回のゲームを監視していた男性。今回も監視していたようだ。

その隣には前回もいた女性がいた。

? 「ええと…今回のスタジアムでの観客動員数は…なるほど…。」

すると、この部屋に一人の男性が入ってきた。

? 「今回も無事にゲームはすんだのか?」

? 「あつ、月村さん。」

実はこの男性、この逃走中と言うゲームを開発した、若き天才科学者、月村サトシである。

? 「はい、今回も無事、ゲームは終了しました。」

月村 「そうか…。」

? 「今回も上手くいったようだな。」

この部屋にあったモニターに丸い球体のような映像が映ったとともに、男性の声が聞こえて来た。

月村 「あ、明理さん。」

明理 「逃走中を君たちに任せてよかったよ。次回も頼めるかな?」

月村 「はい。」

? 「わ、わかりました!」

明理 「では、頼んだぞ。」

月村 「…。」

? 「月村さん…。」

月村 「次回のゲームの準備でもしておこうか。」

? 「あ、はい!」

月村 「手伝ってくれないか? 今宵君?」

今宵 「はい! 分かりました!」

続き（後書き）

この小説内で出て来た明理さん。オリキャラです。

有明さんはどこ行ったんだ！と言っツッコミはやめて下さい。

次回は逃走中DVDにも収録されているオマケをやってみようかと思えます。

次回、下見中…。

逃走者はどこを歩き、どこをさまよう…。

逃走中 番外編〜下見中〜（前書き）

今回は下見中です。

ふゆき「何で前回は書かれなかったのに今回は書かれるんですか？」

そのことなんですがね…他の作者さんが書いているのを見て、僕もやりたくなってきて…。

ふゆき「あなたって…まともが無いというか…流されやすいというか…。」

そ、その辺のことは言わないで…。

逃走中 番外編 下見中

逃走中 番外編 下見中

逃走者はどこを歩き、どこをさまよつ…。

1stステージ 東エリア

ヒナギク「まだ暗いわね…歩いてる人も少ないし…。」

現在商店街付近を移動中の桂。

ヒナギク「電灯もまだ点いているし…夜明け前にやらなくてもね…。」

スタッフ「どこに行くか決めています?」

インデックス「決まって無いな…。でも当麻を探して一緒に行動しようかなー。」

スタッフ「ミッションには行きますか?」

インデックス「足遅いし…今のところは行く気はないなー。」

こなた「前回ね〜参加したけど捕まっちゃったんだよね〜。そのこともあるから今回は逃げ切りたいんだよ〜。」

カメラに向かって意気こみを語る泉。

こなた「…！此処は…ショップかあ…。」

泉が見つけたのはアニメやゲームなどの関連グッズを扱っている店。

こなた「今逃げている最中だし…あとで来ようか…。」

ななこ「市街地やからな今回…そこら辺からいきなり出てくるってこともあるからな〜…。」

現在、ビル街の中を歩く黒井。

ななこ「それで確保するのが最悪やからな…気いつけないとな〜…。」

マリオ「前回ピットやアイクがこのゲームに出ていたからな〜出てみたかったんだよね〜。」

タワー付近を移動中のマリオ。

マリオ「…？あの灰色の服を着ているのって…。」

マリオが遠くに誰かを見つけた。

スネーク「どこに行こうか…！あれはマリオか…？」

スネークだ。

マリオ「そっちハンターいた？」

スネーク「いや、今のところは見つけていないな。」

マリオ「そうか…ありがとう、お互い頑張ろうな。」

スネーク「ああ。」

二人は別々の方向に分かれて行った。

マリオ「スネークの服黒っぽかったから…ハンターかと思ったよ…。」

┌

緑地付近で隠れ場所を探す吉井。

明久「隠れ場所ないかな…ハンターに見つかりたくないな…。」

スタッフ「何ですか？」

明久「今とつてもやばい状態なんだよね…だから絶対賞金取ってお

かないと生活できるかどうか…。」

民家と民家の間の路地をを移動中の仲村。

ゆり「さっきモニターで確認したんだけど音無君も参加していたのよね。SSSのリーダーとして絶対に負けられないわ。」

スタッフ「じゃあ2ndステージには絶対に進むと？」

ゆり「当たり前でしょ。音無君、向こうのチームにいたんだから。」

デパート付近にやってきたスネーク。

スネーク「俺は隠れるのは得意なんだが…逃げるのは不似合いだな。」

スタッフ「じゃあずっと隠れていてミッションにはいかないんですか？」

スネーク「いや、ミッションには向かっぞ。ミッションを見逃すわけにはいかないからな。」

当麻「あ〜どこだ〜」

道に迷っている上条。

当麻「多分このあたり…。」

ゴッ

当麻「うお!？」

足もとが見えていなかったせいかつまずいて転んでしまった。

スタッフ「だ、大丈夫ですか？」

当麻「ふ、不幸だ…。」

タワー付近を移動中の高槻。

やよい「この番組とっても出てみたかったです!テレビで見えて出てみたいな〜って思っていたんです!出れてとってもうれしいです!うっうー!」

逃走中に出れたことがとっても嬉しいようだ。

2ndステージ 西エリア

スタッフ「では、エリアに散らばってください。10分後にゲーム

が開始します。」

逃走者「はい！」

律「さーて、どこに行こうかな？つかさちゃんてどこに行こうと思っ
ってんだ？」

つかさ「え、えーと…公園付近で始めようかなとは思っているんだ
けど…。」

律「そうなのか…お互い頑張ろうな！」

つかさ「あ、うん！」

ふゆき「黒井先生ってどこに行かれるんですか？」

ななこ「そうやなくまあどこからはじめても一緒ぢやうんか？」

ふゆき「そうですか…。」

ななこ「天原はどこに行くんや？」

ふゆき「そうですね…此処に行こうかと…。」

ななこ「そうかあ…じゃあ頑張ろうな！」

ふゆき「はい！」

山崎「どこに行こうかな…。」

春香「あ、山崎さん！」

山崎「あ、えつと…天海さんだっけ？」

春香「はい！お互い頑張りましょうね！」

山崎「そうだね、お互いがんば…。」

春香「あ、鳩さんだ！。待てー！」

山崎「え、僕のこと無視…？」

アイク「どこで始めようか…。」

警察署付近を移動中のアイク。

アイク「前回みたいに鉢合わせで終わるって言うのは嫌だからな…
絶対逃げたいんだよな…。」

ルイージ「それにしても兄さんが勝ち進んでくるなんて…僕も負け

てられないね…。」

公園を移動中のルイージ。と、そこに…。

マリオ「いやあ…まさか2ndステージに進めるなんてな…。」

1stステージを勝ち進んだマリオだ。

ルイージ「！兄さん！」

マリオ「お？ルイージじゃないか。」

ルイージ「今回は兄さんには負けないからね！」

マリオ「兄として絶対に勝ってやるからな！」

お互いに意気込んだあと、別々に分かれて行った。

ルイージ「永遠の二番手と言われていたけれど…今回このゲームで活躍して兄さんを超えてやるんだ！」

マリオ「さっきも言ったけど兄として弟には負けられないからな！」

近藤「うお…立派だなあ…。」

遠くにあるタワーを眺める近藤。

近藤「あのタワーの元で逃げている奴のうちの5人がこっちに勝ち

進んできたんだろう？俺も負けられないな！」

なの「なるべくハンターには会いたくないので…動かないでおこうと…。」

現在市役所付近にいる東雲。

なの「いい所無いか…。」

スタッフ「ゲーム開始まであと1分です。」

なの「えっ！？もうですか！？まだ決まってませーん！！」

スタッフ「目指すは逃げ切りですか？」

美琴「当たり前よ！前回残り約1分で捕まっただから！」

前回残り約1分で捕まっってしまったて、今回のゲームに意欲を燃やす御坂。

美琴「前回逃げ切った桐乃ちゃん？あの子すごいわよね…私が無理だったのをあの子はやり遂げただから…。」

スタッフ「では桐乃さんみたいに逃げ切りますか？」

美琴「さっきから何回も言っているんじゃない…。」

ガノンドロフ「しかしこの街は平和だな…俺はこつゆう所は好きじやねえな…。」

美術館付近を移動中のガノンドロフ。

ガノンドロフ「ゲームっていつ開始するんだ？」

スタッフ「あと…2分半です。」

ガノンドロフ「そうか…。」

ナギ「いや…この番組見ているので何でハンターに気付かないかと思っていたが実際に出てみると怖いものだな…。」

ショッピングモール付近にいる三千院。

ナギ「しっかし、何でこんな町で逃げるんだ？エリアなら私たちが貸してあげたのに…。」

文乃「それにしても…人が増えて来たわね…。」

サラリーマンなどが増えて来たため周りの状況が分かりにくくなっている。

文乃「此処で始めるのは危険だわ…別の場所に移動しましょう…。」

康太「此処…いい所…。」

公園の草むらで身を隠す土屋。

康太「…此処で始める…。」

どうやらここでゲームを始めるようだ。

康太「頑張ろう…。」

逃走中 番外編 下見中 (後書き)

次回は牢獄中です。

ハンターに確保された逃走者たちは牢獄の中で何を語るのか…。

逃走中 番外編〜牢獄中〜（前書き）

牢獄中です。

逃走者は牢獄の中で何を語るか…。

それにしても地の分が一切向上しない。

まだまだだ…。

逃走中 番外編〜牢獄中〜

逃走中 番外編〜牢獄中〜

ハンターに確保された逃走者は牢獄の中で一体何を語るのか…。

まず最初に牢獄にやってきたのはオープニングゲームでハンターを放出させてしまった菊地。

真「はあ〜まさか最初に捕まってしまうなんて…。何で出てしまったんだろうな〜…。」

その次に牢獄にやってきたのはSSSのリーダー、仲村ゆり。

真「あ〜牢獄へようこそ〜。」

ゆり「はあ…もう最悪よ…。」

真「まあまあ話は中でしよつよ。」

ゆり「リーダーとして面目ないわ…。」

真「それにしても…ハンター速いよな…。」

ゆり「そうよね…人間の域を超えているわ…。」

その後、ミッション1が発動された。

そして、先ほど確保されたインデックスがやってきた。

インデックス「も〜う、最悪だよ〜!」

ゆり「それは私だって同じよ…。」

真「それにしてもミッション1か〜…参加したかったな〜…。」

ゆり「私たちミッション発動前に捕まったからね…。」

インデックス「とうまにすべて任せる。」

その後、ミッション1が終了し、ミッション2が発動、終了し、ミッション3が発動。

ミッション3の間に捕まった泉がやってきた。

こなた「あ〜…今回も無理だった…。」

マリア「あらあら、それは残念でしたね〜。」

こなた「そう言えばみなみちゃんが二人いる〜。」

みなみ「あ〜。」

インデックス「本当だ。」

祐子「同じ名前の人が二人いるね〜。」

やよい「みなみさんと美波さんですね〜。」

みなみ「そうだったんだ〜。」

ミッション3が終了し、確保された吉井がやってきた。

明久「あと6人が〜。」

スネーク「よく逃げているな5体の中〜。」

明久「ほんとだね。」

マリア「でも此処って使われているんですか？」

ヒナギク「そうよねえ〜使ってくれるのかしら？」

こなた「此処ってあんまり使われないよ。」

祐子「え、そうなの!？」

こなた「うん、放送されるとしても10数秒くらいだから。面白いこと言わないとほとんど使われないよ。」

祐子「え〜…それって喋り損じゃん…。」

やよい「喋り損って…。」

祐子「だってそうでしょ〜?これだけたくさん喋っているのに10数秒しか使われないって〜…。」

ゆり「そりゃそうでしょ、私たちは敗者なんだから…。」

そして、1stステージが終了し、2ndステージが始まり、捕まった坂本がやってきた。

こなた「早いね〜。」

雄二「それを言うな…。」

祐子「えっと…坂本君だっけ?」

雄二「ああそうだが?」

祐子「おお〜なのちゃんの家にいる猫と一緒に名前だあ〜。」

雄二「猫？」

祐子「うん、坂本さんって言うんだよ。」

スネーク「猫っぽくない名前だな。」

祐子「そうだよね。」

その後、ミッション4が発動した。

そして、捕まったルイージが牢獄の中に入獄した。

ルイージ「入獄って…何で僕の時だけ…。」

山崎「?どこに向かって言っているんだい？」

ルイージ「え、いや、こつちの話…。」

山崎「あ、そう…。」

その後、ミッション4が終了、ミッション5が発動した。

そして、捕まったアイクがやってきた。

アイク「くっそ〜！またしても捕まってしまった！」

こなた「残念だったね〜。」

アイク「それにしても…マリオも捕まったのか…。」

マリオ「ハンター速すぎるだろ…。」

アイク「人間の域を超えているな…。」

ゆり「それ、私が最初の方で言ったわよ。」

ミッション5が終了、ミッション6が発動し、終了、ミッション7が発動し、捕まった憂がやってきた。

憂「捕まっちゃった〜。」

つかさ「惜しかったね〜…。」

飾利「私たち通報部隊に見つかったからね〜。」

山崎「それにしても…ハンター8体だけ？」

マリア「その中逃げ切れるんでしょうかね…。」

ななこ「100%無理やな。」

小萌「そんな…断言しちゃって…。」

ルイージ「でも8体が5組もあるんでしょ？無理に決まってるよ。」

当麻「そんなの防げばいいじゃないか。」

ヒナギク「そうよ。みんなミッションに行きそうな人だから大丈夫よ。」

アイク「いや、ガノンドロフは行かないな。」

マリオ「俺もそう思う。」

ルイージ「ガノンドロフはね…。」

スネーク「行かないな、あの魔王は…。」

巧「え…。」

その後、ハンターに確保されたのがやってきて、8体のハンターが放出した。

なの「うわあ〜…すごいですね…。」

ハヤテ「お嬢さまは大丈夫でしょうか…。」

つかさ「黒かったね〜…。」

山崎「すごい光景でしたね。」

美琴「しっかし大丈夫なのかしら…私でも捕まっているのに…。」

アイク「確かにな。」

美琴「そこは否定してよ！」

アイク「あ、メール来た。」

ルイージ「ほんと！？」

アイク「えーと…」『田井中律確保。残り5人。』

確保者「あ…。」

梓「律先輩も捕まってしまったか…。」

そして、文乃が確保され、2分を過ぎた。

つかさ「2分切ったよ！」

当麻「行けるんじゃないかこれ？」

ハヤテ「お嬢様ー！頑張ってくださいーい！」

ゆり「音無くーん！頑張つてー！」

ルイージ「メールは？」

アイク「今のところ…来ていない…。」

ハヤテ「行けますよこれ！」

マリオ「行けー！」

ピリリ！ピリリ！

アイク「メールが来た！」

全員「ええ！？」

文乃「嘘でしょ！？もうすぐ1分なのに…。」

アイク「えっと…」三千年ナギ確保！残り1人！」

全員「うわあああああああ！……！！……！！……！！」

ハヤテ「お嬢様ー！」

アイク「『残っているのは音無結弦の一人のみ！』」

ゆり「音無君頑張ってー！」

そして、ゲーム終了まで10秒が過ぎた…。

全員「5！4！3！2！1！」

ゆり「終わったわよ!?!」

ななこ「一体どうなったんや!?!」

アイク「…メール!」

全員「え!?!」

アイク「読むぞ…。」

全員「…。」

アイク「…『音無結弦逃走成功!賞金150万円獲得!』」

全員「うわあああああああああ!?!?!?!?!?!?!?!?!?!」

ナギ「おおー!あいつ逃げ切ったのか!?!」

アイク「すげー…。」

ゆり「やっぱり音無君はやってくれると思っていたわ!」

アイク「あれ?そんなこと言っていたっけ?」

ゆり「言ってたわよ?」

スネーク「ほんとか?」

ゆり「ほんとよー！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0997w/>

僕の好きなアニメ&ゲームのキャラで逃走中！～都市内での戦い～

2011年10月13日17時51分発行